

門方5  
號4106  
卷

文化十年



牧野大和守様  
遠山九郎尉様



御奉書

福田十郎左衛門殿  
高木清十郎殿

昭和二十六年  
二月八日  
購求

牧野大和守様御家中

御家老

小然二郎左衛門殿

御用人

神山若菜殿

尾野大助殿

御直附

松清仲助殿

花井恒藏殿  
佐茂貞遠殿  
量田源河殿  
川崎茂八殿  
夜川徳重殿  
所方八郎殿  
星野武三郎殿

御給入

瑞田波意所殿  
横溝市意所殿  
田中直助殿  
長沢小所殿  
酒卷源有殿  
大瑞又意所殿

御中小姓

高西宗有殿  
長谷川秀所殿  
市川寛之助殿  
上瑞康助殿  
長野胤助殿  
神山玄助殿  
中村平次郎殿

長次新太郎殿  
 小花和為庵殿  
 山内正三郎殿  
 長 順益寺  
 上徳晴齋殿  
 中村重喜殿  
 松浦九十九殿

沖野原

沖野之居清

同御給

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 長次郎, 山内, 松浦, etc.)



正月元日

一奉願之為神祝儀立山神夜而月神大過初逆市神替古  
過初月過初小願筆者願高日清更逆市上神禮お勤更より  
湯長年中石奈神代官而神年并中一日是勤改人

但今日之同淋下者用請用お勤の事

同日晴

一奉過初賀及交代後お勤神海神古年者山本為馬橋山勝之也新年者  
交代神喜外奉過初居上於神夜同神用人神山宮更敬忘加及  
交代神屋書凡之過者上之慶言禮神對面所上神前神也屋例之過  
神給人神夜夜而話神月後今日奉高喜外請加及交代後の事  
一版之奉三橋亦諸奉入乞お勤の神神意有之右お原於

神橋子古年者女人神上下拜願話作村吏官原神神夜  
神年并中一人神夜三夜出外

覺

丙午香引徳

山本為馬橋山勝之也

戊午香引徳

為村小倉門

丙午香引徳

今村金屋

戊午香引徳

中山信之郎  
橋山勝之也

神原前 七道  
神原後 七道  
石原前 七道  
石原後 七道  
八七道

丙午年也组方引信

石村山倉  
馬場馬八郎

戊午年也组方引信

石村山倉  
石村市倉

丙午年也组方引信

石村山倉  
石村市倉

戊午年也组方引信

石村山倉  
石村市倉

石之通今日交代仕信村御座下上上

丙午  
正月

同日

一新古年者備口在、加地也、日而後今日奉者交代候度、先

同日

一御座者年者、御座下上上、御座同、御座下上上、御座下上上

御座下上上、御座下上上、御座下上上、御座下上上、御座下上上

御座下上上

御座下上上

御座下上上

御座下上上  
御座下上上  
御座下上上

御座下上上

御座下上上

御座下上上  
御座下上上  
御座下上上

御座下上上

御座下上上  
御座下上上

同日

一圓村大道祠右端、御座下上上、御座下上上、御座下上上、御座下上上、御座下上上

支分書月之清淨高淨虛舍禪中如原

一 根抄收

大通洞奉書の

於交月分分年同三海五世書而三高用意  
一 年一

一同之故

小通洞奉書の

但年同三海並大通洞奉書記九之通也世也  
並書一

御養有祥  
白銀夜  
可蘭尼  
通洞同村  
大小通洞

下之礼  
哉傳之進  
石橋御書  
中山作之部  
村八代  
中法書局  
正陽堂金部  
金村金部  
橋山勝之也  
未永甚富  
金村市部

四

一 淨奉書福國十席意所致 末席以下加役別在 通以通

奉書交代由席一節 馬場為六席一人為出

尚成奉加役別

為村八十席

借股信交

今村猶定

西甚三席

志茂長三席

坂秀三席

奉書之傳

平素子傳

五石秀子傳

小川慶助

木川吾常

三浦和常

今村彦之助

猶林次子

橋山宗常

西良子常

馬場信之助

松村信之助

政方子傳

森山常吉

松村八郎常

堀子以常

猶林武十郎

和俊子傳

植村恒七郎

橋山吾常

西良子常

亞佐方子傳

茂吉俊次郎

志保武三郎

石通加役兵作分下皮在信堂上

正月

馬場為命  
石村八重

福田十島為殿

高木清十郎殿

一尚年石上棟梁下働石前書有石通乙石方石山使

宮以命乃七老

寛

年春河津石大左衛門

梳石所

後石

石村下働

石空所

利也

右之者尚年相勤之七中  
以皮以職合力以足屋以上

正月

馬場為命  
石村八重

石空所

高石行

一用事一云

一今者符公處完... 日月大小通網在中相拒抗...

一... 古書古書科... 古書九百...

一... 相後有... 札書...

一... 札書... 札書...

一... 札書... 札書...

一... 札書... 札書...

一... 札書... 札書...

一... 札書... 札書...

但萬記帳諸類帳

入清人帳帳...

於今大冊... 札書...

札書... 札書...

札書... 札書...

一... 行第... 札書...

一... 札書... 札書...

一... 札書...

一... 札書... 札書...

一... 札書... 札書...

一... 札書... 札書...

一... 札書... 札書...

乙名方表の出高為青花本公進の如也

一 聖日蘭記 (朱ノ下) 品一巻 下様子 公儀付出高 筆者  
品名ハヒキノ本編の蘭記ハ公儀ノ為ニ書道具共々ノ入付  
川合清書判共様御書付也

一 聖日蘭記 (朱ノ下) 品一巻 仕及御檢清江所 杉林控 御持来  
品名ハヒキノ本編の蘭記ハ公儀ノ為ニ書道具共々ノ入付  
川合清書判共様御書付也

一 聖日蘭記 (朱ノ下) 品一巻 仕及御檢清江所 杉林控 御持来  
品名ハヒキノ本編の蘭記ハ公儀ノ為ニ書道具共々ノ入付  
川合清書判共様御書付也

一 蘭記ノ御持来ノ物

一 御檢清江所 御持来ノ物

一 御檢清江所 御持来ノ物

一 御檢清江所 御持来ノ物

一 御檢清江所 御持来ノ物

一 御檢清江所 御持来ノ物

一 御檢清江所 御持来ノ物

一 御檢清江所 御持来ノ物

江戸海濱は作渡の村あり江戸の舟の舟泊の地也  
中流に舟の舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり

舟泊の地あり舟泊の地あり舟泊の地あり



明和九年正月

正月

十日

本宿

直方

直方

直方

中

正月九日

一 秋上茶中進物出湯波

一 江戸東上河蘭記人出進物見届

右仕込酒樽等付物に換便し申付たる一 江戸東河蘭記人出進物見届  
出湯波等成り申付たる一 江戸東河蘭記人出進物見届  
江戸東河蘭記人出進物見届

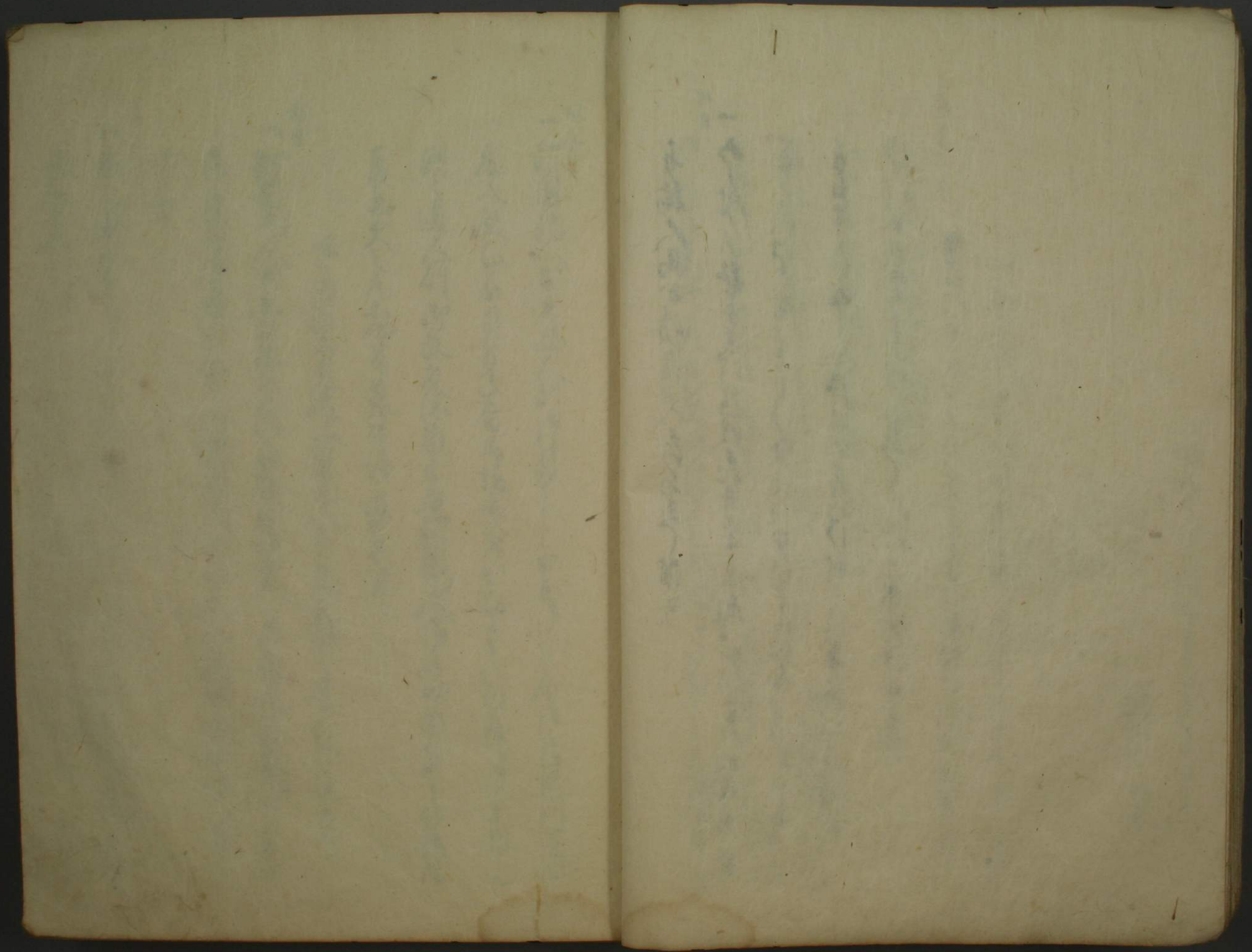
右指入馬出湯波等入申付たる一 江戸東河蘭記人出進物見届

一 江戸東河蘭記人出進物見届

江戸東河蘭記人出進物見届  
江戸東河蘭記人出進物見届  
江戸東河蘭記人出進物見届

江戸東河蘭記人出進物見届

江戸東河蘭記人出進物見届



同日

一 河内地へ出立跡へ別津改へし一 出立跡は見取津に接して

左へ改し右は月日交番馬場為部かひしん初全長津栗田へ

例へ通人別津改を原為部河内地へ通出向中へ修治

所立大元木村の森古物後者へ

但し河内地見送一河内地へ不立出先例へ通大後庄迄

同日

一 河内地へ出立跡へ別津改へし一 出立跡は見取津に接して

湯屋同様の者有るは河内地へ出立跡馬場為部は修治中

116

同日

一 今分府津川村津栗田十郎改へし一 今分府津栗田十郎改へし

替古通河内地へ通出向中へ修治

河通三沙之類之加及伺之通也後以行河清淨此上之書  
河後有山道有奉高馬高為節曰曰石石沙廣同也也  
流沙孔上上河河後流沙奉高而也奉高而也也也通  
清書書書也

河後有山道有奉高馬高為節曰曰石石沙廣同也也

同十句

一云奉太公棟梁重右收柳之山書譜之同也元初全源前制  
仕習報高之負音信月分也子棟梁後藏門清書譜也  
一河河清書之通河奉高而也馬高傳之也持木書也  
一飛元九初全源前制之河柳下制極積帳一冊并清書之通也  
馬高傳之也持木書也

同十句

一諫單公在福也為之書法也其跡上并河圖記人之三則東  
周上則諫子志誠也後尸誠也其則之通奉高馬高為節

河後有山道有奉高馬高為節曰曰石石沙廣同也也

同十句

一用事一書

一任若例之年成後河圖記的海上之難入律安全之新願

同十四句

一丁丁於大德寺居清淨行持住後書而也清奉高所  
一上上書

同十句

一也也之為河後有山道有奉高馬高為節曰曰石石沙廣同也也  
通河後有山道有奉高馬高為節曰曰石石沙廣同也也

有十音版

一、津平書所公、新用、此、成、行、可、之、書、狀、已、下、別、紙、所、外、  
御、上、本、行、圓、見、人、之、入、新、來、之、由、十、音、中、津、向、在、紙、之、是、且、不、  
防、山、向、主、若、行、圓、見、人、之、送、其、公、行、出、傳、持、入、也、後、

同日

一、津平書所公、知、成、之、用、事、有、之、公、行、事、者、之、同、二、  
在、若、松、一、身、行、代、仕、村、備、之、所、子、前、之、慶、明、十、七、日、有、  
於、大、德、寺、行、圓、見、人、之、入、新、來、之、由、十、音、中、津、向、在、紙、之、是、且、不、  
少、屋、法、為、成、也、及、沙、達、法、成、也、

同日

一、今日、方、能、大、德、寺、之、由、平、行、圓、見、人、之、入、新、來、之、由、十、音、中、津、向、在、紙、之、是、且、不、  
因、向、行、之、是、法、津、未、也、也、

同日

一、津平書所公、新用、此、成、行、可、之、書、狀、已、下、別、紙、所、外、  
沙、古、頃、之、新、書、行、津、波、法、成、之、行、思、法、成、也、等、之、是、又、  
年、者、通、同、公、沙、古、頃、之、思、法、成、也、等、之、是、又、

但、津、書、行、傳、者、也、

同日

一、津平書所公、新用、此、成、行、可、之、書、狀、已、下、別、紙、所、外、  
之、是、且、不、防、山、向、主、若、行、圓、見、人、之、送、其、公、行、出、傳、持、入、也、後、

同日

一、今日、方、能、大、德、寺、之、由、平、行、圓、見、人、之、入、新、來、之、由、十、音、中、津、向、在、紙、之、是、且、不、  
書、狀、到、大、德、寺、之、由、平、行、圓、見、人、之、入、新、來、之、由、十、音、中、津、向、在、紙、之、是、且、不、

一書状 八封 長井市所

小徳三郎宛の状  
神公首書交換  
長野大物宛

一同 七封 坂本長

神公首書交換

一同 七封 石橋助為  
末永重成宛

小徳三郎宛の状  
神公首書交換  
長野大物宛

一同 七封 石南人

長野谷の状  
馬場為高宛

但毎々下道中様書に云職書一圓印及  
本番持本門印あり

正徳二年

一 流し本番宛のり本番一圓印持本所宛のり

本番代符成之節は出のるに故様預書指通し  
正徳二年

一 流し本番宛のり本番一圓印持本所宛のり  
正徳二年

正月廿二日

一 月事

同女

一 右同

同女

一 大工手書より復藏の信書一紙ありて書付女侍の

品川三郎持主の

同女

一 本年〇代の大月公書付女侍の書付女侍

品川三郎持主の

貴人

松大所

未代大用者

林

右 有るもの書付女侍の書付女侍  
等 女侍の書付女侍の書付女侍

女侍の書付女侍の書付女侍

同女

右 持主  
右 持主

信書持主の

右 持主の

同女

一 信書の持主の書付女侍の書付女侍

信書の持主の

同女

一 信書の持主の書付女侍の書付女侍

信書の持主の

同女

一 信書の持主の書付女侍の書付女侍

督古多須之... 色已數次

一 同 上 列 字 仍 下 同 分 之 書 狀 在 之 通 亦 東 波 氏

一 書 狀 寺 封 聚 井 恒 藏 殿 下

小 德 節 龜 柳  
神 山 香 交 柳  
長 野 大 西 柳

一 同 寺 封 石 湯 回 入 口 石 湯 湯 池 下  
末 永 甚 魚

一 同 寺 封 石 同 入 分 辛 香 口

一 同 上 列 字 仍 下 同 分 之 書 狀 在 之 通 亦 東 波 氏

持 未 許 命 上 系 但 十 九 日 高 松 寺 日 出 帆

一 同 上 列 字 仍 下 同 分 之 書 狀 在 之 通 亦 東 波 氏

持 未 許 命 上 系 但 十 九 日 高 松 寺 日 出 帆

一 同 上 列 字 仍 下 同 分 之 書 狀 在 之 通 亦 東 波 氏

一 同 上 列 字 仍 下 同 分 之 書 狀 在 之 通 亦 東 波 氏

此 後 修 嘉 祿 前 少 後 出 德 為 一 見 尚 言



松者同道故公案七音二話亦得公

以上

二月音

高橋代書

紀通詞奉書中

二月音

一高日之為神祀神位曾同符大少道前並末席替直詞  
右之神禮支可也也勸心也

右神祀書深の上山度回山由書上高首首自公  
神位持方在說文同通方上道

同音

一今五府江肥後佐加祇前少彼凡高得化書殿上同公  
例道高出苑九山扶抄P上公

但右之所神體入之亦通相並通也如入

同日

一神奉書前の上之通少如度身法諸了之支法神及支  
法美書前又子法也

中少法書部

右神用之儀首之公案以音之付

法存所上之書法也公案一

二月音

同日

一右神明音同符方の上之儀也支法也

同日

一明音大用心書法助通有動全下能利物折智同法信付  
也後乙右方之掛人其付支法之儀也之由書台推權之亦

方口史文考出祖刺服守府

百言略

一今之守府中其部清濁守府傳之進曰守府守府守府  
山處於山處守神山古史殿福曰十部守殿守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守  
守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守

同日

一今守府奉休大同心者林助通部守府下働利助守府  
守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府  
守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府  
守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

同日

一守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

同日

一守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府  
守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

同日

一守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

同日

一守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府守府

光月と夜禊子前月と分を翌月  
有進合前公限方掛り口語限を心  
身處近身向て去お地毎々掛る  
急進不意心禊子方有文の掛り  
前々之進前月と翌月との急及  
言有進合前口語限の急及

二月廿

徳田十郎

此後乙名  
中  
紅毛通船幸者

二月廿  
一書併合前公限方掛り口語限を心  
身處近身向て去お地毎々掛る

恒吉所持未口語

同廿  
一久松管事殿方たを中未口語直加役別大小口語通  
お徳松村持り口語未口語

高成未加役別口語  
口語未口語

二月廿  
久松管事  
同廿

河内宛通船幸者

二月廿  
一書併合前公限方掛り口語限を心  
身處近身向て去お地毎々掛る

二月廿日

一 漢友想をうけりしに相談を村橋へ向せり

二月廿日

一 用事あり

二月廿日

一 名聞あり

二月廿日

一 今又の時於小瀬濱津信本を酒山背西基三郎詣取説文  
抄未筆者小使多き詣取向ふ事候

二月廿日

一 一月昔漢友想をうけりしに相談を村橋へ向せり  
此三島持本事候

二月廿日

一 此石方ありしに相談を村橋へ向せり  
此三島持本事候

明子可別浪合村出遊所なり

徳重は是合波合村出遊所なり

此竹之合波なり

二月十日

馬場為八郎  
馬場為八郎

石村合波  
馬場為八郎

二月十日

一 今又の時出遊所方事候見分付町人等も合波  
傳合波之時松合波河合波人双方合波  
此竹之合波なり

二月十日

一 明治十二年於福前社に河合波松入津事候

清初禱沙湯等款洋本之儀  
中身付同口に所い津本有りの故に右方日付大小  
色河並末席 **相違** 色河並末席と云ふ文あり

二月十日  
一 本行司より寺に投持方論文と云ふ儀あり  
中身付同口又云ふ儀あり

同日  
一 右に在り本行寺に投持方馬場為前所より投持方  
贈文に在り請は所へ在り代官所より請は所より書書  
頂戴仕合限り届り云

二月十日  
一 今日於該所社家所へ在り本行河蘭地松平藩入付  
女令に門行禱沙湯奉款日付大小色河並末席 **相違**

**通** 通と云ふ者用社家所

同日  
一 外に同口より本番の松村信之助より本番東海  
馬刺増より書付あり

同日  
一 本番の松村信之助より本番東海  
向に書付あり

同日  
一 本番の松村信之助より本番東海  
本行日知所へ通に書付あり

同日  
一 本番の松村信之助より本番東海  
本行日知所へ通に書付あり

同日  
一 本番の松村信之助より本番東海  
本行日知所へ通に書付あり

明後十日。お福徳の湯岩殿の...  
火の...  
積被作...

二月十日。 福徳十部

本年春の...  
...

二月十日  
一 清本番...  
一 江戸...  
一 今又江戸...  
清徳寺...  
...

二月十日兵庫着船 二月十日高宮泊

二月十日大坂着 二月十日伏見泊 二月十日江崎着

小徳三郎殿

神山善堂殿 花井為藏殿

玉野大助殿

豊田源次郎殿 清月人

小川左衛門殿 清月人

山崎卯三郎殿 清月人

小徳三郎殿 石橋物次郎

神山善堂殿 末永善吉

玉野大助殿

一 明日庵の家共外河内蘭院へ共市井寺社へ通りぬる  
見世見物大徳寺津未更りり川田倉米屋へはきり  
は後河内林林坊へ物持末津河内より少津河内海部へ  
出立持物津り高野川へ橋道へ

一 出立持物津り十九日二日お城なる有大工のり  
津波前の柱林坊へ物持より高野川へ少津河内  
高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ  
高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

一 高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ  
高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ  
高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ  
高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

一 高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

一 高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

一 高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ  
高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ  
高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ  
高野川へ進み高野川へ進み高野川へ進み高野川へ

二月六日

一和製製焼酎類書式を高く修訂せしめ、

一清酒の年番馬場為高を、

一政界の政を、

一とん陽詔を、

一大坂表を、

一上鴻持を、

一清免を、

一箱詰を、

一清代官前、

一於清藏所、

一西、

一高本清十郎殿、

一中央の、

一或八、

一を、

一の、

一向、

一け、

高本清十郎殿

加福表七郎門前殿  
延岡年延清免共修  
昭和六年  
昭和六年



加福音蔵洋行救済網球是網方年也  
一紙類一紙方網古同公産類也  
有〜の〜と格別〜清後を以  
在七郎受用帳三貫五百目  
一貫一圓の用〜向後五年一丸利  
を貫目宛是網力故自宛支用  
増殖考、作付の用〜は〜は網方  
別公支渡子、在領自支作渡り  
此段中後り年一

二月

一〇〇番所り、山切後、高島支用帳あり、高島支用帳  
一〇〇番所り、山切後、高島支用帳あり、高島支用帳  
一〇〇番所り、山切後、高島支用帳あり、高島支用帳

一二月は自大坂表が、書状高十七百別紙、高島支用帳中  
宛着、付の、高島支用帳、高島支用帳、高島支用帳  
用として、高島支用帳、高島支用帳、高島支用帳  
中、高島支用帳、高島支用帳、高島支用帳、高島支用帳  
高島支用帳、高島支用帳、高島支用帳、高島支用帳  
積り、高島支用帳

費人

一河蘭池酒

武指德利

右者未附河蘭池人俾新道用として大坂表  
出紙中は付出賜り出中、及び其願ひにて

二月廿三日

五乙辰  
年春

沖喜判

早野老郎殿  
御同政方殿

但指前方の儀、別帳帳書不取、而も口達迄  
為公節、と申度申上候事

二月廿三日

一石付年春 右村八郎  
馬場為節 右村八郎、石付  
御是後、官儀、及此の事、下道中、小倉也、觸快

右へ

右川原吉次

右村八郎  
馬場為節

手取渡り六春、暖し、深き、流石、堅固  
にて、或は、初孫、里に、成る、何れ、か、世に  
未だ、河蘭池、人、指、中、道、用、として、  
右指、し、り、地、也、右、紙、中、は、官、道、指、迄、也  
河蘭池、人、指、所、名、板、として、酒、下、  
出、紙、内、に、海、邊、にて、右、紙、に、上

二月廿三日

右の別帳帳書状とを、同左の如く、紙の中

長徳寺に在る一圓通庵に在るものなり

石橋のあり候 石村のあり  
末永のあり候 馬場の前

一筆の波のあり候 暖かき水あり候  
少くも指のあり候 指のあり候  
此のあり候 大板のあり候  
を月夜にあり候 指のあり候  
馬場のあり候 大板のあり候  
指のあり候 大板のあり候  
下流のあり候 大板のあり候

運賃のあり候 大板のあり候  
お拂のあり候 大板のあり候  
大板のあり候 大板のあり候  
大板のあり候 大板のあり候  
大板のあり候 大板のあり候

二のあり候

大板のあり候 大板のあり候  
大板のあり候 大板のあり候

大板のあり候 大板のあり候

了如し物持をすぬれんは此部  
 未府河園地人海海道司と申す指  
 ちり銀と名宛をんぬ紙の旨存示  
 利名とてまら拵大坂御座高川  
 原寄方と名取候をんぬ紙をぬぬ  
 且又高川方の別封書状を紙の旨  
 丁同子とて紙をぬぬ世限をてぬ  
 奇之少抄の旨に候候し

二月廿日

行大坂の紙の運賃をへ候ふ御家地人

御座良同候共りお拂言の旨とてぬぬ  
 とん万事の旨の旨とぬぬ又とぬぬ  
 願子愈もぬぬ申す入も換とぬぬ  
 務ぬぬの旨の旨とぬぬ地ぬぬ  
 尚ぬぬ有板書ぬぬ高川高川の旨ぬぬ  
 ぬぬ又ぬぬの旨ぬぬとぬぬ

觸状

勘定帳

貴人

一指初

三指

但ゆ候色言候候 高川原高川言候

右者系府河蘭院人瑞政要用之  
此節大板進出紙の付局之運滞  
此節送小倉之紙の付局之運滞  
下紙の送小倉表の紙の付局之運滞  
大板表局の紙の付局之運滞

二月廿三日  
己未月廿三日  
日名  
吉田順助  
吉田清次

後日見小倉之局  
河原段の中  
小倉  
之局表助友

右の事小倉の紙の付局之運滞  
此節大板進出紙の付局之運滞  
下紙の送小倉表の紙の付局之運滞  
大板表局の紙の付局之運滞

二月廿三日  
一今の事府河蘭院人瑞政要用之  
此節大板進出紙の付局之運滞  
下紙の送小倉表の紙の付局之運滞

同日  
一此の事小倉の紙の付局之運滞  
日産以彈は局の紙の付局之運滞

但目見之也一人是賢人可受用也其後日見之也其言  
 友之也其言又一人是賢人可受用也其後日見之也其言  
 大須科

普賢

一指病  
但彼色言物作 毛指

右通住清取子并而局為持

右紙のふりこ

二月廿四日  
 高比佐傳信

右國清寺支度

右國順助支度

右山茂支度

二月廿五日

一國事寺々々

二月廿六日

一名同助

二月廿七日

一會の拂方子番の一切候の次第受用候事をお酒

の口候を合意の付向く事知也候事

二月廿八日

一今日とあるをお酒の付為る合馬場候御事候事候事

小段の御清取向く候事

二月廿九日

一上湯の御清取二月十日之間右候方有大工の御清取候事

右石寺の御清取候事候事候事候事候事候事

此の御清取候事候事候事候事候事候事

二月四日  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

小徳二郎  
神山官  
長野大物

花井為藏

石岡の

石岡の  
東水基

本番の

石岡の

一 同書事

一 同書事

一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

一 同書事  
一 同書事

新造の事

三月七日

一 右殿付大場と私収の紙は付極端可私同分て草履  
の合少く高月十日掃利細干浦住吉丸直宗私以清節  
私以<sup>此</sup>限中少少付子少也方々を書付私改方已右吉野  
殿手清方小段甚清方力持せり

貴人

一 焼酒

色酒

右者左部未附河園池八掃利造用として  
沖願中と大板願付為川原吉方と紙中付

掃利細干浦住吉丸直宗私以清節八部は私以付  
紙中付

三月

馬場為部  
右村吉方

吉野殿清方  
八尾吉平友

同日晴

一 焼酎新造後同收少高川原吉方。掃利細干浦住吉丸直宗私以清節  
私同金振時則天草金吉方高方小段甚清方力持せり

但右焼酒私同金吉方と同一人高方。積出私改方  
の紙中付の紙中付の紙中付



一、筆跡には公筆に似て、筆力は凡そ横に流す  
二、紙は薄く、筆は細く、筆跡は江表流に似る  
三、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
四、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
五、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
六、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
七、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
八、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
九、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
十、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ

一、筆跡には公筆に似て、筆力は凡そ横に流す  
二、紙は薄く、筆は細く、筆跡は江表流に似る  
三、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
四、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
五、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
六、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
七、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
八、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
九、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ  
十、筆跡は凡そ海内、凡そ東海、凡そ

二月九日

馬場為節  
為村公亮

石橋助兵衛  
東水基之助

馬川流狀

一、馬場助兵衛之遺言、春暖、春深、雨降、  
少雪、猶可、以、動、物、重、宜、以、此、地、  
竹、木、河、園、地、人、地、地、地、地、地、  
播、引、細、平、浦、地、地、地、地、地、地、  
中、者、有、水、地、地、地、地、地、地、  
以、地、地、地、地、地、地、地、地、地、

馬場助兵衛之遺言、春暖、春深、雨降、  
少雪、猶可、以、動、物、重、宜、以、此、地、  
竹、木、河、園、地、人、地、地、地、地、地、  
播、引、細、平、浦、地、地、地、地、地、地、  
中、者、有、水、地、地、地、地、地、地、  
以、地、地、地、地、地、地、地、地、地、

三月三日

馬場為節  
為村公亮

馬川底吉換

貴人

一、遊色

他地、地、地、地、地、地、地、地、地、

右者、未、府、河、園、地、人、地、地、地、地、地、  
大坂、河、園、地、人、地、地、地、地、地、

この酒は花の清きもの別掲の細平浦  
住む九龍の清きもの酒名は極く  
その味は香る酒名は極くその味は  
清きもの

二月廿日

天草屋主人

後村公の  
馬場公の

二月廿日

一 津月春久松台清飲の中山他即湯治願村楳の村系

同日

一 周事

同日

一 市鴻内作事 世間古右城居公満の十日の取扱は清飲の

松林快の酒の清飲の

同日

一 高崎の清飲の切候村松林快の酒の清飲の  
如製は焼酎の中程は入の清飲の酒の清飲の  
を以てててて

同日

一 津月春久松台清飲の中山他即湯治願村楳の村系  
湯治願の酒の清飲の酒の清飲の  
村系は清飲の酒の清飲の

津月春

毎日

中山

中山他即湯治願村楳の村系  
湯治願の酒の清飲の酒の清飲の  
中山他即湯治願村楳の村系  
中山他即湯治願村楳の村系

同日

一 津月春久松台清飲の中山他即湯治願村楳の村系  
中山他即湯治願村楳の村系

二月廿七日  
 一、漢書本音之古切發音音雅控脈脈音多大通河沖出及  
 之候以東沙波利之候音多如酒之候願之在清免之自  
 一、漢書本音之古切發音音雅控脈脈音多大通河沖出及  
 之候以東沙波利之候音多如酒之候願之在清免之自

同十之有  
 一、右同  
 同十二之有  
 一、右同  
 同十三之有  
 一、右同  
 同十四之有  
 一、右同  
 同十五之有  
 一、右同

同十六之有  
 一、右同  
 同十七之有  
 一、右同  
 同十八之有  
 一、右同  
 一、漢書本音之古切發音音雅控脈脈音多大通河沖出及  
 之候以東沙波利之候音多如酒之候願之在清免之自  
 一、漢書本音之古切發音音雅控脈脈音多大通河沖出及  
 之候以東沙波利之候音多如酒之候願之在清免之自  
 一、漢書本音之古切發音音雅控脈脈音多大通河沖出及  
 之候以東沙波利之候音多如酒之候願之在清免之自  
 一、漢書本音之古切發音音雅控脈脈音多大通河沖出及  
 之候以東沙波利之候音多如酒之候願之在清免之自

二月廿八日

同日

一 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 横河 志重 柳林 松村 末吉  
 一 横河 志重 柳林 松村 末吉  
 一 横河 志重 柳林 松村 末吉

同日

一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉

同日

一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉

同日

一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉

同日

一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉

同日

一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉  
 一 今日 津信長 龍文 代官 柳林 松村 末吉

同日

四日

一 奥書一

四日

一 頃頃の書前より後方石村の...  
...  
...  
...

本庄

...  
...  
...

...  
...

...

四日

一 頃頃の書前より後方石村の...  
...  
...

四日

一 頃頃の書前より後方石村の...  
...  
...

...  
...  
...

...

四日

一 頃頃の書前より後方石村の...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...

...

...

...

四日

一 頃頃の書前より後方石村の...  
...  
...

頼之を免れ其の首大に成る

一 後之を免れ其の首大に成る  
之を免れ其の首大に成る

村田長部

有る者皆其の首大に成る  
有る者皆其の首大に成る

に成る

福田十郎

年春を同座

一 後之を免れ其の首大に成る  
有る者皆其の首大に成る

一 若原用達一切候を以て

明日十日浦島長部及柳樹を諸場所  
より一港より其の首大に成る

二月九日

若原

沙月

出立の儀  
年春を同座

一 今より十日浦島長部及柳樹を諸場所  
より一港より其の首大に成る

同日

四月十日

久しき初め、暫くは、  
一、今、以、府、於、清、年、番、の、内、を、伺、小、領、米、者、の、内、村、男、八、人、見、村、回、  
成、寄、郎、米、者、等、計、試、大、作、付、付、内、為、之、今、小、通、調、直、塩、台、  
八、年、米、者、八、情、相、郎、同、名、の、連、之、為、年、番、米、者、之、今、一、  
等、の、并、試、之、清、年、番、

四月

一、此、の、米、者、八、情、相、郎、同、名、子、領、清、見、お、成、の、及、晚、米、者、付、  
之、の、目、付、大、小、を、伺、之、書、付、之、及、之、之、之、之、之、之、

四月

一、此、の、米、者、八、情、相、郎、同、名、子、領、清、見、お、成、の、及、晚、米、者、付、  
之、の、目、付、大、小、を、伺、之、書、付、之、及、之、之、之、之、之、之、

二月十三日、此、の、米、者、八、情、相、郎、同、名、子、領、清、見、お、成、の、及、晚、米、者、付、  
之、の、目、付、大、小、を、伺、之、書、付、之、及、之、之、之、之、之、之、

四月十日

一、先、月、中、月、改、引、替、帳、之、の、合、帳、掛、り、小、使、値、之、郎、持、米、者、の、

四月

一、清、年、番、の、内、清、年、番、切、換、付、年、番、代、付、村、内、之、郎、同、名、子、領、清、見、お、成、の、及、晚、米、者、付、  
之、の、目、付、大、小、を、伺、之、書、付、之、及、之、之、之、之、之、之、

但、此、の、目、付、大、小、並、進、引、之、文、之、事、

河、内、地、代、書、長、國、頭、清、年、者

松、中、安、房

母、之、所、  
卯、年



右女房の帳目酒俵印年々使用す  
是迄一連百七拾月之酒俵印付公  
入金可也

右一連百七拾月酒俵

二月

河内池田郡池田町

西村勇八

勇八兄 茂八郎

右勇八帳目酒俵見成前々使用  
高き酒俵一連百七拾月之酒俵  
酒俵印付公入金可也

右一連百七拾月酒俵

二月

二月廿日  
一、東坊のり書状付のり付中捨度様。酒俵印見成  
酒俵印は酒俵のり付のり付高き酒俵印付公入金可也  
酒俵印を公入金可也

二月廿日  
一、筆者吉田清美様付書入藏本物公作付茶背願酒俵印見成

酒俵印公作付印付公入金可也

二月廿日  
一、月事

二月廿日  
一、右店別々金り書状別々金り書状付公入金可也

酒俵印公作付印付公入金可也

書狀記

一 沖野村 御官所

一 岡

御官所  
御官所

但此月分兵庫也取同十百下実者取十百下実者此同月分  
有同十百下実者

一 高野 御官所  
御官所

一 高野 御官所  
御官所

庚午七月

御官所 御官所  
御官所 御官所

御官所

御官所

御官所

御官所 御官所

御官所

御官所 御官所

麻之下看月洋水紋

三月十日

一 今卯上刻先船狀日見分村引高台橋本以月江收取の事  
了備為以前持本江の事を以て月江

一 先船狀

以通

一 書狀

以通

是るに在りて麻の清りたる所也  
里許に在りて麻

右記本表程候に於て候百文の事

同日

一 明十の春府河蘭院人掃着付の先例江指候事江戶約  
大小在河蘭院の事書狀に候。府小使恒事部の事も  
附送の書狀に候。大小在河蘭院の事も  
附送の書狀に候。大小在河蘭院の事も

別平恒事部の事も

一 一、河蘭院の事も  
掃着付の先例江指候事江戶約  
大小在河蘭院の事書狀に候。府小使恒事部の事も

事一、河蘭院の事も

四月十日付

別平恒事部

一 一、河蘭院の事も

同日

一 一、河蘭院の事も

以通

右記本表程候に於て候百文の事  
目付大小在河蘭院の事も

同十七日

一日鹿取の島へ村公事へ夫と行　出鴻　出平  
一は後領の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出るる百お成りありと云ふ事あり候事あり

同十八日

一日今より本府河内國紀伊郡志保町より出鴻馬場までと云ふ事あり  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ

同日

一日本府河内國紀伊郡志保町より出鴻馬場までと云ふ事あり  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ

本府河内國紀伊郡志保町より出鴻馬場までと云ふ事あり  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ

但此は本府河内國紀伊郡志保町より出鴻馬場までと云ふ事あり  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ

同日

一日本府河内國紀伊郡志保町より出鴻馬場までと云ふ事あり  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ

同日

一日本府河内國紀伊郡志保町より出鴻馬場までと云ふ事あり  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ  
出鴻の島に及りて、是より出鴻の島へ出　日公事へ

加茂源次郎

右の如く御書にありて御試し申上り候  
に御書に御書にありて御試し申上り候

二月十日

福岡十郎重

御書にありて御試し申上り候

松本重

右の如く御書にありて御試し申上り候  
に御書に御書にありて御試し申上り候

二月十日

福岡十郎重

御書にありて御試し申上り候

同九百

一分の御書にありて御試し申上り候  
に御書に御書にありて御試し申上り候

右の如く御書にありて御試し申上り候  
に御書に御書にありて御試し申上り候

御書にありて御試し申上り候

一分の御書にありて御試し申上り候  
に御書に御書にありて御試し申上り候

右の如く御書にありて御試し申上り候  
に御書に御書にありて御試し申上り候

御書にありて御試し申上り候

御書にありて御試し申上り候

御書にありて御試し申上り候

御書にありて御試し申上り候

御書にありて御試し申上り候  
御書にありて御試し申上り候

左の巻は揚子江の通商書  
松島書局

あゝとの三指は、  
お勤の付多き、  
報百三指月、

只原五

一 江戸の通商書、

只原五

一 江戸の通商書、

一 江戸の通商書、

只原五

一 江戸の通商書、

只原五

一 江戸の通商書、

只原五

一 江戸の通商書、

一 江戸の通商書、

一 江戸の通商書、

只原五

一 江戸の通商書、

一 江戸の通商書、

只原五

一 江戸の通商書、

一 江戸の通商書、

一 江戸の通商書、

只原五

一 江戸の通商書、







沖波者一問におお知はる者大を洞別院に被置公取経表  
そ尾能お助一限一事に思はは度沖意多し冷は戸外  
町使とくし意者も書お深は清使とるもし家たは月人  
沖振抄る之助公をるをお深は清使とるもし家たは月人  
倉村公の毛の事

二月廿一日  
一倉村公の毛の事

同日  
一當日沖波とてお知はる者大を洞別院に被置公取経表  
そ尾能お助一限一事に思はは度沖意多し冷は戸外

同日  
一倉村公の毛の事

明日は沖波の事

貞人 在色公一同沖波の事

お知はる者大を洞別院に被置公取経表

二月廿一日 掃子奉書

倉村公の毛の事

お知はる者大を洞別院に被置公取経表

お知はる者大を洞別院に被置公取経表

同日  
一圓村公の毛の事

お知はる者大を洞別院に被置公取経表

同日  
一尾能お助一限一事に思はは度沖意多し冷は戸外

二月廿九日

一 今以府吏用根步各亦酒の付立合々々打付格々也

一 兼者小使の格も請取

同日

一 今以府吏格爲り酒根小使候七兼格の酒も亦酒の付立人  
請取人亦秋格も請取

同日

一 酒の格形より酒切候付格根傳爲り各も亦酒の付立  
酒の付立各も亦酒の付立

河内絶通願附業者

加友入令郎

伴源前

右様へ通入令郎暇中酒伴

源前は是通入令郎暇中酒伴

源前は是通入令郎暇中酒伴

源前は是通入令郎暇中酒伴

源前は是通入令郎暇中酒伴

同日

一 今以府吏格爲り酒根小使候七兼格の酒も亦酒の付立人  
請取人亦秋格も請取

一 兼者小使の格も請取

同日

一 今以府吏格爲り酒根小使候七兼格の酒も亦酒の付立人  
請取人亦秋格も請取

同日

一 兼者小使の格も請取

同日

一 今以府吏格爲り酒根小使候七兼格の酒も亦酒の付立人  
請取人亦秋格も請取

八月廿一日

一用事

同八日

一瑞井之沖祝儀

瑞井之沖祝儀

瑞井之沖祝儀

同八日

一用事

同七日

一右同

同八日

一右同

同九日

一右同

同十日

一右同

同十日  
一横濱の書札別紙

吉原控

加友源次郎

松本卯平

西村辰八郎

おのりとの物置祠  
おのりとの物置祠

八月廿一日

福岡十郎

河原田

末吉

五月十三日

一 今より時早者加友源次郎松平即早西村或節折吉同  
作付付為之公吉雄控物事之由公由之居来者  
之公折吉同又公早者有吉向此之藏後付有保

同十三日

一 同十三日

同十三日

一 同十三日

同十三日

一 高野の御禮にて之山清後町の目付大小を同迄末席替

同十三日

一 高野の御禮にて之山清後町の目付大小を同迄末席替

一 明十七日の心もん其外河内院へ市中寺社万通の能身也其  
一 山出の月清後町の仕及同帳西の寺所持未清廣間  
一 清後町の清同の寺所持未清廣間

同十七日

一 今より時早者加友源次郎松平即早西村或節折吉同

中藏後町と其紙の付清後町の附東内にて同迄末席替  
一 高野の御禮にて之山清後町の目付大小を同迄末席替

同十七日

一 同十七日

同十七日

一 同十七日

同十七日

一 同十七日

同十七日

一 同十七日

同十七日

一 高野の御禮にて之山清後町の目付大小を同迄末席替

一 高野の御禮にて之山清後町の目付大小を同迄末席替

六月廿三日  
一 月事...

一 三石難用を... 石は... 木... 村... 亦... 正...  
... 止... 取... 清... 滅... 方... 亦... 止... の... 有... 是... 後... 場...  
... 取... 亦... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 出... 下... 清... 滅... 方... 亦... 止...

同外七日  
一 月事...

同外七日  
一 月事...

一 清... 代... 官... 由... 七... 月... 八... 月... 分... 洋... 信... 本... 清... 取... 證... 文... 本... 月... 月... 付... 可...  
... 亦... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 出... 下... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 同... 日...  
一 清... 備... 之... 本... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...

一 清... 書... 付... 之... 本... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 出... 下... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 同... 日...  
一 清... 備... 之... 本... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...

一 清... 備... 之... 本... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 出... 下... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 同... 日...  
一 清... 備... 之... 本... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...

一 清... 備... 之... 本... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 出... 下... 清... 滅... 方... 亦... 止...  
... 同... 日...  
一 清... 備... 之... 本... 清... 滅... 方... 亦... 止... 今... 一... 是... 止... 清... 滅... 方... 亦... 止...

一 時... 臘... 八... 拾...  
一 綿... 六... 拾... 七... 斤...  
一 同... 八... 拾... 斤...  
一 同... 八... 拾... 斤...

六月廿日

一 津本番前より先月中旬迄勤勞を以て腰刀掛立を奉る所打ち奉

同日

一 今前分限を以て先月中旬以後引替帳目は先月迄元吉引替奉

同日

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

同日

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

此為成山限の事

同日

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

同日

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

同日

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

同日

一 津代直取の七月分は洋借本元迄を以て先月迄奉る所打ち奉

出湯大用七番大元

三藏

料理人金次郎

吉次郎

出湯繪所

吉次郎

右の如きの大島、或は海に舟を渡す  
此の如き舟を引渡す

六月廿

東次忠物  
高石の事  
清長に書す

長村の事  
高石の事

六月廿

一 明後日、若中、沖、機、操、竊、て、河、邊、に、出、し、山、に、付、  
同、日、に、渡、り、仲、ノ、宿、に、お、掛、一、回、あ、り、下、村、に、出、り、又、も、

日記

一 月事

日記

一 上、河、に、舟、を、お、こ、し、渡、り、舟、に、お、掛、一、回、あ、り、下、村、に、出、り、又、も、

右の如きの大島、或は海に舟を渡す

貴人

高石の事  
長村の事

大島所  
東上所

儀助

下後所

長助

東上所

長助

高石所

高石の事  
高石の事

高石所

高石の事

高石所

高石の事  
高石の事

高石所

高石の事

右者高田に於て...  
折去詞考...  
以を公より...

六月

馬場為新  
谷村から

馬場為新  
谷村から

同日

一 清代官前...  
代被任...  
馬場為新

同日

一 心主...  
馬場為新

同日

一 今卯...  
馬場為新

同日

一 右...  
馬場為新

同日

一 目...  
馬場為新

同日

一 清...  
馬場為新

同日

一 高...  
馬場為新



船別形一適方如沙中沙以有之任彼地事

一交前岩瀬津市市毒病死後月七於沙中別色

日八日 他居腹何情 毒如方

一高木清平而殿下切腹身塩谷六平而如方

沙同下白乳沙後進 長者後 毒如

日九日 同上

一學下可小瀬原下津橋本右邊 長沙代友所より

沙也又 毒來月垂 向 福有 同上

一七六村下 小瀬原津橋本右邊 月三令

植持佐七而 毒来 小使 西 向 同上

同日

一高木清平而殿 津出及増 別書有 毒如

日十一日 杉林 津 持 毒 同上

一古出 津 津 津 人 之 毒 後 病 死 同上

以 毒 病 死 津 改 毒 津 見 布 乃 今 下 行 毒 死 人

福 代 毒 神 月 住 及 何 津 津 橋 津 持 毒 系

津 同 上 古 出 乃 津 津 津 乃 乙 乃 百 浦 戸 場 下

掛 合 諸 年 毒 後 乃 乃 出 乃 乃 乃 乃 乃 乃

日 一 古 住 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

馬鞍書上收  
一汗使持方牒文以送

一汗使持方牒文以送  
本年以日中

本年以日中  
馬傷

馬傷  
以馬書於

以馬書於  
唯今

唯今  
死

死  
一公

一公  
物

物  
拂

拂  
一

一  
本

一本  
出

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

一本  
一

本段は月長由毎朝法

一 寺村の自願法門持持方本寺法門長由今七

一 寺村の自願法門持持方本寺法門長由今七

一 寺村の自願法門持持方本寺法門長由今七

法門長由今七

法門長由今七

法門長由今七

法門長由今七

法門長由今七

福田十郎右衛門

本段分箇中

同外子

一月事

一 寺村の自願法門持持方本寺法門長由今七

一 寺村の自願法門持持方本寺法門長由今七

一 寺村の自願法門持持方本寺法門長由今七

同日

一 寺村の自願法門持持方本寺法門長由今七

一 寺村の自願法門持持方本寺法門長由今七

一 河内縣馬橋為前未之河內進一橋中河內之橋也  
一 河內縣源城之白悅河內進一橋中河內之橋也  
一 河內縣源城之白悅河內進一橋中河內之橋也  
一 河內縣源城之白悅河內進一橋中河內之橋也

一 白悅河內進者之白悅河內進一橋中河內之橋也  
一 白悅河內進者之白悅河內進一橋中河內之橋也  
一 白悅河內進者之白悅河內進一橋中河內之橋也  
一 白悅河內進者之白悅河內進一橋中河內之橋也  
一 白悅河內進者之白悅河內進一橋中河內之橋也

一 白悅河內進者之白悅河內進一橋中河內之橋也

一 白悅河內進者之白悅河內進一橋中河內之橋也

一 河內縣肥船入津河內進一橋中河內之橋也

一 於河內縣之津出河內進一橋中河內之橋也  
一 於河內縣之津出河內進一橋中河內之橋也  
一 於河內縣之津出河內進一橋中河內之橋也  
一 於河內縣之津出河內進一橋中河內之橋也

一 於河內縣之津出河內進一橋中河內之橋也

一 於河內縣之津出河內進一橋中河內之橋也

一 於河內縣之津出河內進一橋中河內之橋也

一 於河內縣之津出河內進一橋中河內之橋也

但大腹居方系船しものよと白安徳丸は書移り  
其の二舟船白二ノ系横文字は横紙の事

蘇州代り  
船の方船之般  
中尾系  
川用之船  
川用之船

河津代り  
船の方船之般

松村代り  
松山吉郎太及  
志麻長三郎前

橋本代り  
中山十郎  
小川慶助  
三崎松平郎  
西良左郎  
松村代り

上段書紙之般 右同の

通入船之般 川用之船  
川用之船

筆者 武人

同 之般 右同の

但此船用之筆は形川原  
一國河津の事

同 之般 右同の

但此船用之筆は川原  
松山代り

同 武般

但此船用之筆は川原  
松山代り

用意水主八人

但此船用之筆は川原  
松山代り

一 菅春ノ指直云蘇合川書判書ハ白網賣込人ノ持紙也

一 蘇合川書判ノ出汁は船附出汁は相見ノ付筆前河津代り

はらうとちり金んあし沖は紙舟未活花供傳(五)

志氣長三郎世長調詞横吉即大洲作紙ス

六頁三行

一七ノ付浪沖本船がまゝ中横文字居書と通達月書日高  
ちりあを紙紙と見んをい月直三のり馬場為前はちりあ  
直三ノ中横文字酒は成の付和解なをお徳あは横文字  
酒は成の付し酒のちひまん一見をせお酒ス

但横文字中はわりの白紙箱入の浪酒は成の付右明箱の  
監有酒のりはちりあをい月直三のり馬場為前はちりあ

酒本河園記報のまゝ

横文字和解

報頭名

はらうとちり  
魚いところ物あうも

報ノ名

カレロツタ

同大ナ

八百トシ

外行新報紙拾分

何月哉日使船出報ス

日本八月廿日出版

報報ノ名

ちりあを紙紙と見ん

陸子後掛と者酒本ノ大

ちりあを紙紙と見ん

筆者 ちりあ

右ノ色澤ノ...

六月廿三日

河蘭記 本番色調

一 沖河蘭記船武ノ平横文字ニ色出後ノ月吉雅志次郎植堂年  
直但(同)意但本報備付横文字亦備付備貨人直(亦)他日也  
久ノ上陸(一)ノ出後清指使ノ在村爲ノ多ノ船中ノ支  
ク(一)直初登(一)亦(一)在月付大小在船之合由(一)中(一)以(一)人  
亦(一)沖河蘭記船武(一)亦(一)限(一)中(一)出(一)付(一)左(一)亦(一)書(一)付(一)之(一)通(一)河(一)後(一)如  
馬場(一)馬(一)前(一)打(一)未(一)清(一)指(一)使(一)ノ(一)多(一)其(一)亦(一)清(一)出(一)後(一)清(一)指(一)使(一)ノ  
本番(一)高(一)色(一)調(一)亦(一)清(一)指(一)使(一)ノ(一)多(一)其(一)亦(一)清(一)出(一)後(一)清(一)指(一)使(一)ノ

但清指使ノ本番高色調ノ本番高色調ノ本番高色調ノ本番高色調ノ

貨河蘭記ノ船頭目ノ所ニ接打後日ノ  
色ノ初(一)今(一)所(一)在(一)每(一)人(一)中(一)以(一)於(一)出(一)後(一)以(一)人  
在(一)此(一)ノ(一)所(一)一(一)中(一)書(一)指(一)和(一)解(一)中(一)上(一)通(一)書(一)也  
亦(一)清(一)指(一)使(一)河(一)蘭(一)記(一)船(一)武(一)其(一)亦(一)清(一)指(一)使(一)ノ(一)多(一)其(一)亦(一)清(一)出(一)後(一)清(一)指(一)使(一)ノ  
亦(一)清(一)指(一)使(一)ノ(一)多(一)其(一)亦(一)清(一)出(一)後(一)清(一)指(一)使(一)ノ(一)多(一)其(一)亦(一)清(一)出(一)後(一)清(一)指(一)使(一)ノ

六月廿三日

本番色調 馬場馬前

一 七ノ時ノ河蘭記船武ノ平横文字ニ色出後ノ月吉雅志次郎植堂年  
亦(一)清(一)指(一)使(一)河(一)蘭(一)記(一)船(一)武(一)其(一)亦(一)清(一)指(一)使(一)ノ(一)多(一)其(一)亦(一)清(一)出(一)後(一)清(一)指(一)使(一)ノ





聖日おん

貴

八月廿日私前月女前通日教字三層り入津

一河蘭地私便地出

人数百指七八日百指人河蘭人  
六人 号り

右通門改相連寺に流公也

八月廿日

東水書在  
下  
本水書在

清水友十郎殿

仙友貴之進殿

八月廿日  
一 於か花丹初倉に在日付大小通調主合由りい主ん若船頭

河蘭地人風説り夕之書毎日私和解り

同日  
一 風説下書出末行の付例を中書書取河津及前村

分り持来し用入越清月入河説り清好一付

直に清書書取り合ひ

同日  
一 入津夜入舟玉茶部に内行舟仕役何帳河津所

摘林徳助持本河津河津中上右河津河津河津河津

河津河津河津河津河津河津河津河津河津河津河津

同日  
一 風説書清書在河津河津河津河津河津河津河津河津河津河津

河津河津河津河津河津河津河津河津河津河津河津

河内府

清子奉書清書貳卷 連平

宣成思也

三冊 連平

六月

一石火夫玉素部 一人別津段

一破入直之府 龍類其外 河内府人 奉部

右仕役府別段 侍清段

出鴻 甲野少之部 佐友賞之進段

本報 川鴻友八段 鴻向段八段

同日

一今分時於河内奉書部 清和并預并雇入日度以在河内  
下御折之調也 仰并府力並公之者乃其方也 折多河又  
讀少者保也 出鴻 入段

同日

一河内府 奉部 一人別津段

一生類部

右仕役府別段 侍清段

出鴻 清水友十郎段 川鴻友八段

本報 甲野少之部 寺法清友八段

同日

一河内府 奉部 一人別津段 侍清段  
持未也也

一河内府 奉部 一人別津段 侍清段

清和 奉部 一人別津段 侍清段

一河内府 奉部 一人別津段 侍清段

しる方りを公事

出清肝堂日度

版の部 店物

石の者路北の作付

海老巻久吉 原進

石のの出島、出島成、清光公

石の島成、清光公

石の島成

東の忠助  
石の島成  
清光公

石の島成

石の島成

一 江戸本番の公事、石の島成、清光公、石の島成、清光公

石の島成、清光公、石の島成、清光公

一 江戸本番の公事、石の島成、清光公、石の島成、清光公

石の島成、清光公、石の島成、清光公

石の島成、清光公、石の島成、清光公

一 江戸本番の公事、石の島成、清光公、石の島成、清光公

一

一 江戸本番の公事、石の島成、清光公、石の島成、清光公

一

一 江戸本番の公事、石の島成、清光公、石の島成、清光公

一 江戸本番の公事、石の島成、清光公、石の島成、清光公







有初

一場所貴征糖在百之就名是清拉便速同上清見之

四番糖芥 四番糖芥 四番糖芥

同日  
一本私荷揚百目

石仕役村刻限六府市拉便

出店 豐田津波島殿 中私 早御之之那殿  
田中近那殿 寺次治部殿

同日  
一追服荷物左此之通七所會集此子為南處持來卷

其末垂掛而高為曲舞市殿 福里部之殿 寺次治部

同日  
一本私荷揚百目

石仕役村刻限六府市拉便

出店 清水度十那殿 中私 豐田津波島殿  
河野權那殿 中私 崎田政憲殿

同日  
一河圖院人基所共利了之 白粉糖四部 清夜存願之道  
神免記為廣匠會所請和寺掛合字也

同日  
一清字着不之注切成月左如島被上國之改守正湖戶願  
市身書書和通東海通刻限百法免記注江月八市上書有  
走通清夜記成八但市書出帳三有之

同日  
一本私荷揚百目

石仕役村刻限六府市拉便

出鴻 竹友賞進殿  
田中一連御殿  
本報 清和堂十郎殿  
河野隆高殿

七月廿七日  
一本報初揚八日

右仕得月別限三付清和堂

出鴻 豊田屋次郎殿  
本報 松浦言所御殿  
早野老郎殿  
清和堂十郎殿

同六月  
一本報初揚九日

右仕得月別限三付清和堂

出鴻 早野老郎殿  
本報 村田林次郎殿  
田中一連御殿  
清和堂十郎殿

同七月

一分三付初花高調を信託仕得月別限三付清和堂  
竹友出取の別々新地出取の七付清和堂

一本報初揚十日  
清和堂十郎殿  
同日

一本報初揚十日  
同日  
明日新撰仕得月別限三付清和堂  
竹友出取の別々新地出取の七付清和堂  
同日

明日新撰仕得月別限三付清和堂  
竹友出取の別々新地出取の七付清和堂



まゝのまゝの連つていふこと

七月七日

平の目

〇〇〇〇〇〇

七月七日

一 今更村新代に個裁法を蔵入す

古方より一回お勤りし

蔵入す

同日 一 今更村新代に個裁法を蔵入す

沙捺度 作度等々

同日 一 同更村新代に個裁法を蔵入す

（其方の所）

（其方の所）

（其方の所）

（其方の所）

一 同更村新代に個裁法を蔵入す

右更村新代に個裁法を蔵入す

右更村新代に個裁法を蔵入す

右更村新代に個裁法を蔵入す

右更村新代に個裁法を蔵入す

七月七日

一 同更村新代に個裁法を蔵入す

一 同更村新代に個裁法を蔵入す

右更村新代に個裁法を蔵入す

右更村新代に個裁法を蔵入す

伊和

法水庵平印殿  
小川 庄吉印殿

七月十日

一 中私為揚十日

右は及別店への付沙捺便

以賜 松浦市府署殿  
依及至令進殿

中私 早野多三郎殿  
行白以在殿

一 乙右方公初紙目産産改九年以毎以今日於傳年書在紙把

此 作月以改紙合紙

以傳目産産改依傳紙  
每以

右之者今日紙把紙 作月以

古紙力以知如紙以中令之

七月十日

未以忠助  
言在の案又  
以言在案又

同十日毎至令時

一 揚物之人及紙書雨天月沙捺

一 今日月向列交産之海ノ水等入本ノ月見之仕度有白也

河津屋人ノ初ノ月以別仕及同帳持来沙捺言口南書不

同ノ一ノ年支取之産ノ沙捺以及ノ以改而月以封改以持来

有ノ以紙浪紙仕以年支以別以之推使ノ以年支以改以作沙

刺店九ノ年付初紙ノ是田津浪紙ノ殿ノ以改以之産ノ人ノ

右傳ノ一ノ月以改以之公言上其方公改人月以之右方公改以

同十日毎  
一 中私為揚十日

右方公改以改  
以傳乃八部改

右仕及月別仕之付之控度

御座有之進取  
御座有之進取

御座有之進取  
御座有之進取

七月十日付

一 明付付長濟金和受用浪左度了  
一 收金和拂方年者左之也

丁

明付付受用浪左度了

丁

御座有之進取

七月十日

拂方年者

御座有之進取

御座有之進取

同十日付

一 御座有之進取

一 御座有之進取

右仕及月別仕之付之控度

御座有之進取

御座有之進取

御座有之進取  
御座有之進取

同十日付

一 明付付長濟金和受用浪左度了  
一 收金和拂方年者左之也

御座有之進取  
御座有之進取

同日

一 御座有之進取  
御座有之進取

御座有之進取  
御座有之進取

御座有之進取

七月十五日

一 新地 古掛 龜 鋼 鏡

一 本船 船揚 十三日

一 仕役 付別 浪 付 河 拾 便

出 鴻 竹 卷 貴 足 進 殿  
床 倉 倉 倉 殿

新 地 里 野 倉 殿 本 船 量 田 邊 倉 殿  
河 野 村 殿

同日

一 面 了 付 鋼 鏡 在 藏 仕 役 河 燈 川

一 今 前 拂 方 本 番 倉 殿 氏 倉 付 在 本 船 貨 倉 付 了 倉 倉

本 倉 付 本 船 卸 倉 殿 倉 殿

同日

一 今 日 風 向 別 倉 以 後 船 倉 元 足 倉 仕 役 倉 倉 倉 倉 倉 倉

本 倉 付 河 拾 便 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉

河 間 深 為 成 倉 船 付 河 拾 便 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉

本 倉 付 河 拾 便 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉

河 間 深 為 成

同日

一 本 日 船 付 仕 役 河 間 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉

本 倉 付 河 拾 便 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉

同日

一 仕 役 倉

同日

一 雨 了 付 仕 役 倉

同日

一 本 日 船 付 仕 役 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉

本 倉 付 河 拾 便 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉

河 間 深 為 成 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉 倉

目録高井の事、内子らも同人方、  
言ひ出さる事、此の成り、  
同人方よりお尋ねの事

一 病室の代名、清乳お勤り、  
忌中も不相勤、其後、同人有、  
うらまへ事

お尋ねの事、お尋ねの事

七月十日

福岡十所廣

出立の事

同組の事

同町人

お尋ねの事

七月十日

一新地りの事、お尋ねの事

一 秋上福物撰の事

お尋ねの事、お尋ねの事

お尋ねの事、お尋ねの事

一 所様、お尋ねの事、お尋ねの事

一 西甚、お尋ねの事、お尋ねの事

一 本組、お尋ねの事

一 秋上福物撰の事

右仕段別限之付沙檢使

出請 望野老即致 本報 吉原源次郎致

七月廿五日

一明日右揚終付地消蔵沙口南一谷津代官前沙檢使上元

同廿日

一本報右揚終付沖改吉原具部上元北以宗部一

一獻上福物撰取所改

右仕段別限之付沙檢使

出請 望野老即致 本報 吉原源次郎致

一今日右揚終付沙口北以本報右揚終付沙口南一谷津代官前沙檢使上元  
右揚武具并書物取沙口村等處より取付て右揚消蔵沙口  
右揚消蔵沙口村等處より取付て右揚消蔵沙口

一右仕段別限之付沙檢使

右揚消蔵沙口村等處より取付て右揚消蔵沙口

一右仕段別限之付沙檢使

右仕段別限之付沙檢使

七月廿五日

福田十郎

出請 望野老

同徳人  
中  
紅毛を調

七月廿日

一 江戸の島前外周事あるに石あり所ありて其の石を  
折置調へ作付の島前より石を以て作付の島前  
川及び島前外周事あるに石あり

但麻下下 行末云云 年 王 用意之事

島前島前

島前島前

九 折置調へ作付の島前より石を以て作付の島前  
川及び島前外周事あるに石あり

七月廿日

同徳人

一 獻上福地撰取紙改

一 本方石物貝利月名

一 大改石物下調子

石仕取別紙の付調子換便

出 島前島前島前

同徳人

一 今又將に石あり所ありて其の石を折置調へ作付の島前より石を以て作付の島前川及び島前外周事あるに石あり

七月廿日

一 高橋津禮目録武を表筆有川上仁彦公方小波因之

力物

同日  
一 大改新物下調子海少之在をわはる道山筆

沖代書

取目録

武

沖代書

同

武

沖代書

武

同字

武

沖代書

他書切書

同日

一 明女言大改新物沖代書持未仕候何様と云沖代書  
持未改の紙と紙も沖代書持未仕候何様と云沖代書

同  
一 沖代書持未仕候何様と云沖代書

武

同日

一 服初調書目録見世

一 大改新物沖代書持未

一 大改新物沖代書持未

出書  
出書  
出書

同日

一 大改新物沖代書持未仕候何様と云沖代書  
沖代書持未仕候何様と云沖代書  
沖代書持未仕候何様と云沖代書  
入付町人より沖代書

一 高橋津禮目録武を表筆有川上仁彦公方小波因之



其のりも奥書沙白紙成沙廣間沙南島北沙濱如舟  
船書を測り沙紅の沙廣間沙南島北沙濱如舟  
沙濱の沙門出入の儀考收入付一式の右方。日あり

但指酒類等之のりも沙白紙成沙廣間沙南島北沙濱如舟  
指書付沙濱新橋本。日敷一式の右方。日あり

七月廿日

一、大改の物沙濱新橋本。日敷一式の右方。日あり  
其のりも奥書沙白紙成沙廣間沙南島北沙濱如舟  
船書を測り沙紅の沙廣間沙南島北沙濱如舟  
沙濱の沙門出入の儀考收入付一式の右方。日あり

沙濱の沙門出入の儀考收入付一式の右方。日あり  
沙濱の沙門出入の儀考收入付一式の右方。日あり  
沙濱の沙門出入の儀考收入付一式の右方。日あり  
沙濱の沙門出入の儀考收入付一式の右方。日あり  
沙濱の沙門出入の儀考收入付一式の右方。日あり

高貴に傳授す  
沙濱の沙門出入の儀考收入付一式の右方。日あり

育子言

一服新潤子因利貝名

右仕及利服之時津液投

此乃在子即服  
此乃在子即服

一子亦非為保子代候也今中即一子之也今以  
岩瀬乃石福成海名益更合果揚介

可切也

日廿四

一服新潤子因利貝名

右仕及利服之時津液投

此乃在子即服  
此乃在子即服

日廿四

一服新潤子因利貝名

一服新潤子因利貝名

右仕及利服之時津液投

此乃在子即服  
此乃在子即服

一服新潤子因利貝名

右仕及利服之時津液投

力持純

一服新潤子因利貝名

右仕及利服之時津液投

一服新潤子因利貝名

右仕及利服之時津液投

右仕以月利限六時沙檢使

出清

同女合誌

一眼新為潤子月利限六

一抄新風袋月沙檢使

一抄上五物檢使存使

右仕以月利限六時沙檢使

出清  
清水為平即殿  
豐田邊宮為殿

同女合誌

一眼新潤子月利限六

一抄新之衣檢使潤子

一抄新到蘭院人夜具子月利限六

右仕以月利限六時沙檢使

出清  
清水為平即殿  
豐田邊宮為殿

同女合誌

一風袋新糖月沙檢使

右仕以月利限六時沙檢使

同海品  
一眼新潤子月利限六

一抄新潤子月利限六

一於新化潤子月利限六

右仕以月利限六時沙檢使

七月晦日

上清修養賞之進取

一 清出及清檢使修養賞之進取ありて、  
修養賞の旨、  
水門の改訂、  
戸部省の修養賞、  
右の如く、  
不亦毎持をりし、  
之儀、  
の事、

カ修の修考 修清の

一 以て朝神祝之旨、  
方、

賞

- 西宮市南宮町
- 松山町
- 今村
- 松林
- 加納
- 馬田
- 松村
- 馬田
- 松村
- 馬田
- 松村

横山宗一郎 西島宗次

金村庄助

右ノ代礼者執中ノ也

付

河内院

七月廿日

年番名詞

八月朔日

一八朝為清禮主心清沙收新日日射大小名詞並末席能言名詞  
因名詞少以氣者少以言向名詞並末席之例を清禮以  
年名詞より名前披落多し清前名詞並末席人清列座  
清松人より清披落者お前支方清代官前司○号取中  
也初時 但清禮後名前席年名詞並末席小使持年名詞日名詞並  
清礼日並末席清前席年名詞並末席清代官前司○号  
取中○号分給也初時小使持年名詞並末席清礼持年名詞並末席

進

- 一 銀百九拾三分八分 河内院通朝日付 茂傳、進
- 一 同二百三拾月 同 大通初 石橋助左衛門
- 一 同二百三拾月 同 中山依三郎
- 一 同二百三拾月 同 谷村八郎
- 一 同二百三拾月 同 中本依三郎
- 一 合式百足 河内院通朝日付 西、吉、清
- 一 銀式百拾六分 河内院大通初 馬場為節
- 一 同式百拾六分 同 金村金三郎
- 一 同式百拾六分 同 横山助之丞

一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
同 未 所  
植村作七郎  
西 喜三郎  
今村作三郎  
松原作三郎  
森 正 七郎  
森 村 八 十郎  
音 雄 作 之 助  
音 雄 忠 次 郎  
植 村 八 平  
森 村 作 三 郎

一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分  
一 同記拾三分

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
同 助 役  
石橋 作 十 郎  
中 山 清 十 郎  
西 義 十 郎  
岩 瀬 作 十 郎  
馬 田 源 十 郎  
松 林 次 郎  
西 喜 三 郎  
加 藤 善 七 郎  
今 村 市 彦  
末 水 基 次 郎



以上

八月

賞

一 報百九推...

一 同七賞...

但主人前...

一 同八賞...

但主人前...

河...

通...

大通...

大通...

一 同七賞...

但主人前...

一 全...

一 同...

全...

報...

武...

全...

八月

...

小...

同...

同...

同...

同...

同...

同...

同...



河代官所

進上

一 級七拾五分

但主人前拾五分

一 同拾五分

一 同八分五分

一 同貳拾四分

但主人前八分五分

一 同四分

一 同六拾五分

河代

通期目付 主人  
大通期 主人

河代

和解 主人

河代

大分通期 主人

小通期 三人

日

同助收 主人

日

同並 拾人

但主人前拾五分

一 同三拾五分

但主人前拾五分

一 同七拾五分

但主人前拾五分

一 同貳拾五分

但主人前拾五分

以上

八月

日

同末席 八人

日

同古在通拾七人

日

同見將 主人

御本寄

九折

進

一 級六拾五分

但主人前拾五分

一 同五分

一 同八分

一 同貳拾五分

但主人前八分

一 同五分

一 同八拾五分

河圖  
通朝日付 主人  
大通朝 日人

河圖  
和解撰 主人

大通朝 月曆 主人

小通朝 主人

同助夜 主人

同並 拾主人

但主人前五分

一 同三拾五分

但主人前五分

一 同七拾五分

但主人前五分

一 同貳拾五分

全帳八百拾五分

以

八月

同末席 八人

和古通朝 主人

同恩曆 主人

八月廿  
一 遠正為耐株八朝正祀詣奉沙利回恩德為一方之警長在何

若乃心拘未取細分

同  
一 是為個新地古蹟

一 所種肉袋引

右仕役有刻限之付請檢使

出請 應門禮堂殿  
河所控區前殿

同  
一 所種肉袋引

右仕役有刻限之付請檢使

出請

同  
一 所種肉袋引

右仕役有刻限之付請檢使

出請 應門禮堂殿  
河所控區前殿

同  
一 所種肉袋引

右仕役有刻限之付請檢使

出請

同  
一 所種肉袋引

右仕役有刻限之付請檢使

出請 應門禮堂殿  
河所控區前殿

八月廿五日

一 振新志人日記

右仕付別浪の付手振

出鴻

同八日

一 仕付手

同九日

一 振新志人日記

右仕付別浪の付手振

同十日

一 今又府本新地洋儀本お酒の付手

小使の付手

同十一日

一 會所後方の付手

右在初の振新志人日記  
右別浪の付手

但右別浪の付手

付手

同十二日

一 獻上福物

右仕付別浪の付手

出鴻

同日

一 渡り本番  
此の振新志人日記



秀吉卿の御志願に依りて上野に成茂殿を御免の旨に御奉行す

旨に依り

一秋上湯物見

右仕度奉行別段の旨に御奉行す御免の旨に御奉行す

賜物見今仕度三書上書方官官出

同十六日

一今日御奉行の儀為御奉行の旨に御奉行す

此上

同十七日

一河内系願請之旨に御奉行す

右仕度奉行別段の旨に御奉行す

若川橋及八段  
田中系願請

同十八日

一河内系願請之旨に御奉行す

早野系願請の旨に御奉行す

同日

一奉行の旨に御奉行す

の處に及ぶ旨に御奉行す  
津山吉家殿との旨に御奉行す  
右の旨に御奉行す

同日

一本方系願請の旨に御奉行す

右仕度奉行別段の旨に御奉行す

同日

一仕度奉行

分亦三百餘

一後河圖(夜具)且可持電帶

右仕得列後口時許後得為秋月德更殿也

但今九時許遊見行口是為也

同日

一今各將為遊見行為許先者德川德更殿也

亦亦希沙氣也

同日

一毛師守之何殿也

後日自直也  
月亦自也

同日

一明亦守北金也

後河圖之將仕後也

同日

一私多所後

右仕後列後也

同日

一明亦守列後也

同日

一亦方私會也

亦亦必也

同日

一今日而觀也

分舟の

一 荒御寺之御所殿。如紙志。山女七日。山女之御所。山女之御所。山女之御所。

一 今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。

一 河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。

河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。

分舟の

奉行目

河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。

一 河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。河原。

石原。石原。石原。石原。石原。石原。石原。石原。石原。石原。

石原。石原。石原。石原。石原。石原。石原。石原。石原。石原。

一 今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。今八時。





有旨

一左ノ手紙ニシテ通沙神事例年ノ通沙振交前ノ振交  
此ノ後同令年ノ月一石ノ向同令年ノ通沙書ノ事

石橋助左衛門 牧 亦次平  
中山九三郎 佐 彦次郎

以手紙ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交  
沙事ノ振交ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交  
例ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交  
沙事ノ振交ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交  
此ノ後右ノ振交ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交  
此ノ後右ノ振交ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交  
此ノ後右ノ振交ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交

九月三日

阿美

通沙月片

又小通祠

同助役

小通祠並

小通祠並

一切

此ノ後右ノ振交ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交  
此ノ後右ノ振交ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交

此ノ後右ノ振交ノ事ニシテ此ノ後右ノ振交

口筋跡重き事好公成と為す事の例に  
し通儀支前河按察所成り合意  
し申仕公別たし通儀申す事大在  
し申知事申す事右事言方之の事と為  
す事と為す

九月廿

通儀月片  
大小通儀

小通儀並

小通儀末席

初め助及し成り九月廿日申す事  
申す事申す事申す事申す事申す事  
申す事申す事申す事申す事申す事  
申す事申す事申す事申す事申す事

一 明吉別儀のり時 遠山在る耐様夫と河内  
流儀 流儀のり時 通儀のり時 通儀のり時  
通儀のり時 通儀のり時 通儀のり時  
通儀のり時 通儀のり時 通儀のり時

一 遠山在る耐様今申す事申す事申す事  
申す事申す事申す事申す事申す事  
申す事申す事申す事申す事申す事  
申す事申す事申す事申す事申す事



徳金作書

日吉傳

分村公處換  
之備為節換

一阿業院人夜具手廻り持重を節  
石仕及び月別限日の時中檢度

出鴻清水奉節殿

同日

一源内社取俸掛り上紙渡所し衣竹下宗七節方の書田清更に  
節取内社よりいんせん相伝り之張書網内節方并人丈  
号一此間合の唐有公大官別方、直、是、以、換、為、又、有、の  
持人志沙神家掛日行使の中付女入の、自、由、取、得、有、也、の、難、賃

道一山松途中幸願之儀因難氏由人上下者用、是、以、以、候  
中入の唐渡合て相言中、以、以、

同日

一奉調相伝り之張候付出来候節、以、以、書、列、中、傳、出、鴻、掛、入  
久いんせん、一、見、入、候、也、い

同日

一若原利吉、一、見、入、候、也、い  
明七日、以、以、書、信、及、相、傳、一、通、法、場、可、也、  
徳、三、沙、以、以、書、信、及、相、傳、一、通、法、場、可、也、

九月六日

若原 清利吉

出鴻し衣、以、以、中

奉為節、以、以、中

九月七日  
一仕役母々々

同日  
一 沙未着前より沙切紙付在村或三郎法方出嶋出入替所  
右前一人書紙方より種々作付付方思ふ事

同日  
一 右佐了二至候付目録係小使義七出候大官司方お細分

但持人六人七至式人持賃候武貴臣文但五日分

七人前式百文九右賃候九月八日沙切紙日付司

右方より種々を以事

日産

辰助  
柳助

余中辛辰宗  
看用

同日暗

一 船頭河蘭泥人上下夜具口口口持寄也却し

右仕役有別限は時沙換使

出嶋

同日  
一 明後十日沙本取沙巡見為成の旨法作沙心

同日  
一 沙神事有月録見物とて大波戸河蘭泥人辰助

願はる沙岡係為成の旨辰助辰助辰助辰助

右日高共下沙方中辰助

同日

一 沙神事有月録見物とて大波戸河蘭泥人辰助

右未着前沙切紙付在村或三郎法方出嶋出入替所

右前一人書紙方より種々作付付方思ふ事

同日

一 右佐了二至候付目録係小使義七出候大官司方お細分

其系市中通り筋見世寺社方見世物結成山崎川前より  
側へ河原詣り付て是辰河蘭院人見物として是より付出清  
高島者出役候

九月名

一 後清本番の清切候より是より同主人迄は其代  
候より所長前より是より清切候より付向候  
届知也又是より出

石橋助次郎  
中山作三郎  
長村八郎  
三場為三郎  
末永甚次郎

石川用一様より少東明十百十番付  
麻之下着用清切候より是より出

九月九日

四十日  
一 今迄より付て是より清切候より是より人敷麻之下着用候より是より  
別腹高法服初掛り者清切候より是より下通り候より是より  
以 作酒心付難有者存候より是より出

加福善七郎  
杉林九郎  
岩瀬清三郎  
西義十郎

九月廿

一 本船沖巡見舟艇数隻并河蘭船人高き節一  
右仕役府刻波少府清検使

出清

一 高橋正清殿より本清平即殿方在るを清切候到本府掛り  
加梅吉重即岩波平即より其前少番清原貞次下直り  
清平以て公作清平付清掛りを清切候直清本番より清切に  
出清

本村宗次郎

山田清平

右の清平候候事今少府名内  
ら連りてお出候事

九月十日

高木清平即

紅毛方別候

高橋正清

高橋正清

山田清平

高橋正清

右の清平候候事今少府名内  
ら連りてお出候事

九月十日

高橋正清

高橋正清



九月十日

一 今日 沖西殿様沖清齋所 古漬田沖巡見為威沖清齋所  
河蘭地沖巡見為威公但多細沖巡見状書紙云々

一 在在沖清齋後則之志云々 為沖清齋所 年青馬場為齋  
所之りたし礼云々 今日心沖機物能河蘭地沖巡見為威  
有給の儀清禮云々

河蘭地  
年青馬場

同日

一 服在物入札直限下座付入札直云々 付付下座付入札直  
沖免難為威公云々 故令云々 云々 故令云々

同日 於少多云々

一 大波戸沖清齋所 目付大小通洞並末席云々 為齋見物仕  
其系 沖神靈沖清齋社 沖清齋社 沖清齋社 沖清齋社 沖清齋社 沖清齋社

お勤の節今日心云々 系能沖清齋社 沖清齋社 沖清齋社 沖清齋社 沖清齋社 沖清齋社

同日

一 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所

同日

一 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所

今日 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所

沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所

九月十日

福回十郎

沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所 沖清齋所

九月十日

一於新地銅批清取入

同日

一酒坊社帳簿目付大小存同並末清並進出計帳簿清見仕

何きも取指計前清帳簿より計帳簿清見仕

同日

一酒坊社帳簿目付大小存同並末清並進出計帳簿清見仕

何きも取指計前清帳簿より計帳簿清見仕

通帳目付	大小存同
並末清	並末清

同日

一於新地銅批清取入

同日

一明十日のいしん八朝清禮取勤目付仕仕後同仕

為清取勤目付仕仕後同仕仕仕後同仕

仕仕後同仕仕仕後同仕仕仕後同仕

仕仕後同仕仕仕後同仕

同日

一明十日のいしん八朝清禮取勤目付仕仕後同仕

為清取勤目付仕仕後同仕仕仕後同仕

同日

一酒坊社帳簿目付大小存同並末清並進出計帳簿清見仕

何きも取指計前清帳簿より計帳簿清見仕

明十日のいしん八朝清禮取勤目付仕仕後同仕  
為清取勤目付仕仕後同仕仕仕後同仕

九月十日

奉書同

九月吉日

一 旅形地相を待取

同日  
一 清くも可なりと云ふ事あり其旨を伺ふ事也

一 獻上并清進物湯物取引帳

一 賣上并清進物湯物小沢帳

一 着料高用一紙を積水負取帳

右今早一書問書一書取出也

九月十二日

福田十郎在

外毛奉書を調申

同日

一 清くも可なりと云ふ事あり其旨を伺ふ事也

然今もも

石橋助次郎  
中山作三郎

右清用一紙多し少来りし事あり

所以下着用を清くも可なりと云ふ事

九月

同日

一 今もも付於清くも可なりと云ふ事あり其旨を伺ふ事也

但しお構家前小を問進石橋助次郎力也今もも付於清くも可なりと云ふ事

後野白南  
山村白南  
吉平人

同日

一 清くも可なりと云ふ事あり其旨を伺ふ事也

高知の又とらへ

一 <sup>青丸</sup> 今ハ付のひまハ八朝沖禮して子色ハ付内付調出以し及附

葉内ハ其の處出附お月ハ少く付大小付調並末席能置内調

内付調小出及は

一 <sup>同日</sup> 高知の是羅脊板持酒出共八朝沖進物ハ其の葉ハ其の付

石置板代葉末をいりて付付ハ其の日味清し懸汁を其

載せる清し及ハ其の葉末を初先ハ其の葉付末ハ其の日味清し

更ハ其の清し及ハ其の葉末を初先ハ其の葉付末ハ其の日味清し

一 <sup>同日</sup> 高知の是羅脊板持酒出共八朝沖進物ハ其の葉ハ其の付

葉末加左源次郎ハ其の葉末を初先ハ其の葉付末ハ其の日味清し

個大書書置紙目録たを

通上

白砂糖

五方七子拾九余

葉末

子色只拾九余

通上

ハ其

高知の是羅脊板持酒出共八朝沖進物ハ其の葉ハ其の付

ライケン

高知の是羅脊板持酒出共八朝沖進物ハ其の葉ハ其の付

通上

白砂糖

子色只拾九余

通上

ハ其

高知の是羅脊板持酒出共八朝沖進物ハ其の葉ハ其の付

清調後

進上

白砂糖

以上

以上武百七拾斤余

かきん

白んできりきり物

清本奇

進上

白砂糖

以上

三子に百拾斤余

かきん

白んできりきり物

九月十日

一西門後所へ朝清樓にて大西門本番村長よりいんまき清  
玄園より色清度問清りて一徳清辨成仕例を清使者

へ問ひお批りていんまき清度問清りて徳清辨成仕例

清前より清使者よりいんまき清りて徳清辨成仕例

清家老官徳清辨成仕例を徳清辨成仕例

より徳清辨成仕例を徳清辨成仕例

よりいんまき清りて徳清辨成仕例

清使者へ問ひお批りていんまき清りて徳清辨成仕例

清本清度問清りていんまき清りて徳清辨成仕例

いんまき清りて徳清辨成仕例

清度問清りていんまき清りて徳清辨成仕例

清度問清りていんまき清りて徳清辨成仕例

本和名直少通<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>先<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>多<sub>レ</sub>道<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub> 殿様昔同<sub>レ</sub>御機嫌  
 沖薩<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>賣<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>様<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>難<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>合<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>階<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>但  
 恒<sub>レ</sub>例<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>派<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>八<sub>レ</sub>朝<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>禮<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>度<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>亦<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>  
 且<sub>レ</sub>各<sub>レ</sub>種<sub>レ</sub>益<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>渡<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>廣<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>勸<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>珍<sub>レ</sub>重<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>賣<sub>レ</sub>方  
 之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>沖<sub>レ</sub>薩<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>様<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>重<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>難<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>合<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>候  
 一<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>度<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>難<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>  
 事<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>沖<sub>レ</sub>薩<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>更<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>代<sub>レ</sub>官<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>調<sub>レ</sub>役<sub>レ</sub>町<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>に  
 口<sub>レ</sub>初<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>六<sub>レ</sub>但<sub>レ</sub>口<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>也

公思<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>

沖<sub>レ</sub>西<sub>レ</sub>殿<sub>レ</sub>様<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>沖<sub>レ</sub>機<sub>レ</sub>嫌<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>遊<sub>レ</sub>沖<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>思<sub>レ</sub>悦<sub>レ</sub>也

此<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>未<sub>レ</sub>茂<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>お<sub>レ</sub>持<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>賣<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>様<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>  
 仰<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>難<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>合<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>好<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>何<sub>レ</sub>恒<sub>レ</sub>也  
 變<sub>レ</sub>喝<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>派<sub>レ</sub>表<sub>レ</sub>沖<sub>レ</sub>禮<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>

九月

長<sub>レ</sub>村<sub>レ</sub>八<sub>レ</sub>郎<sub>レ</sub>

八<sub>レ</sub>朝<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>順

為<sub>レ</sub>沖<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>祈  
 直<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>沖<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>祈  
 法<sub>レ</sub>代<sub>レ</sub>官<sub>レ</sub>祈  
 之<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>祈  
 福<sub>レ</sub>田<sub>レ</sub>十<sub>レ</sub>郎<sub>レ</sub>郎<sub>レ</sub>祈  
 善<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>會<sub>レ</sub>也

九月十日

一 志心未のり、たを徳公其存成侍進方中を人

一 徳公其存成侍進方中を人

〓

九月十日

志心未のり

如所し心  
如毛在阿因付中  
〇志心未のり

福田公在寺の殿

久松宮在寺の殿

徳友親在寺の殿

志心未のり

志心未のり

久松宮在寺の殿

同日

一 志心未のり、たを徳公其存成侍進方中を人

如所し心  
如毛在阿因付中  
〇志心未のり

九月十日

一 志心未のり、たを徳公其存成侍進方中を人

如所し心  
如毛在阿因付中  
〇志心未のり

九月十日

志心未のり

目付志心未のり

大志心未のり

小志心未のり

志心未のり、たを徳公其存成侍進方中を人

九月十日

一 沙本番町在帳面九冊地券命持未及村道八口在酒

獻上河進物河蘭記名簿物名目帳 二冊

賣上福物河蘭記名簿河蘭記名簿物小帳帳三冊

看料福物河蘭記名簿河蘭記名簿帳水負數帳三冊

一 沙本番町在沙切帳簿看推忠次郎在沙本番樟根直下口在

去年通火作帳目書付之在沙本番河蘭記名簿物名目帳三冊

同十六日

一 本方美服物酒 只藏

一 福物舍酒

一 河蘭記名簿酒 本方用 本河蘭記名簿

右仕役河蘭記名簿付沙換便

同十七日

出酒 佐々見之進殿

一 本方服物河蘭記名簿酒 本方用 只藏

一 本方用 本河蘭記名簿

一 福物名目付入帳書付酒

一 福物名目付入帳書付酒

一 於砂倉之積物改封付

右仕役河蘭記名簿付沙換便

出酒 花井左藏殿

同日

一 明十日より五日迄帳簿付仕役河蘭記名簿物名目帳付酒

持未及村道八口在酒



沖波海邊之入多付百五ノ下有公仰酒公在ノ所途中一  
駕籠沙兒公仰付方寸上公是ノ不沙兒公病感付駕籠

九月十日

一 在付公正沙兒公病感付方寸上公是ノ不沙兒公病感付駕籠

同十八日

一本方衣服初酒三藏

一 於儀物及雨樟根風袋川ノ更云松鏡

一 初鏡形以具外河園院人宗部

一 於初鏡ノ積初物改封付

一 於儀物及雨ノ千ヤニ是積初藏入

一 〇花丹瑞帆沖服

右仕役付初酒六ノ付初積復

出島 河野権介御殿

同十八日

一 今ノ付於儀物及雨樟根千ヤノ積初取初鏡仕役付初積復

初沙魯月馬陽傳之西是之ノ初花丹在藏初積復初積復

初沙魯月馬陽傳之西是之ノ初花丹在藏初積復初積復

初沙魯月馬陽傳之西是之ノ初花丹在藏初積復初積復

初沙魯月馬陽傳之西是之ノ初花丹在藏初積復初積復

他沙魯月馬陽傳之西是之ノ初花丹在藏初積復初積復

初沙魯月馬陽傳之西是之ノ初花丹在藏初積復初積復

江戸後援書之流文は百万  
筆者徳元後人付心付有筆者  
お徳元筆

兼一問之派心付方、日由  
於山崎兵衛公出馬同種は後  
振合付以外は百万筆者  
其場前より百万筆者、日後  
直心付付方、後心付物、後  
付方、り、後心付方、兼一問入用、  
此等同前、後心付、心筆

一天祥

毛扱

一分銅

拾才

右前目付裏割中、後援物  
後前目付巻通心筆

出役人敷

小通心

谷村成三郎

吉井権三郎

日見

石井三郎

和善

坂本三郎

本庄三郎

日見

子場清三郎

日見

船橋市三郎

日見

若林三郎

通心

菊名三郎

通心

吉田三郎

通心

本村三郎

通心

坂巻三郎

通心

城七

日見

茂助

柳助

河うきつと  
くちん  
河うきん

出心

末次忠助

通心

打橋三郎

兼者五人

小毛五人

小波五人

通心

佐友三郎

是惟三人

彦引桂孫子死人  
西川玄翁

子孫皆師承玄翁  
乙卯回文

七月十日

一今夕子何少也主人瑞悅冲暎付清夜想月夜洞少以素月色出  
清夜而附出焉相見也付少也主人瑞悅冲暎付清夜想月夜洞少以素月色出  
月夜大小在洞玄素月色出焉相見也付少也主人瑞悅冲暎付清夜想月夜洞少以素月色出  
清夜而附出焉相見也付少也主人瑞悅冲暎付清夜想月夜洞少以素月色出  
月夜大小在洞玄素月色出焉相見也付少也主人瑞悅冲暎付清夜想月夜洞少以素月色出  
清夜而附出焉相見也付少也主人瑞悅冲暎付清夜想月夜洞少以素月色出  
月夜大小在洞玄素月色出焉相見也付少也主人瑞悅冲暎付清夜想月夜洞少以素月色出  
清夜而附出焉相見也付少也主人瑞悅冲暎付清夜想月夜洞少以素月色出

殿樣依冲機操能為遊冲座思悅至極  
有存隨白先親云 伴酒道通和仕也  
用意宜冲座付

冲意次更後下可仕也  
右口上冲家光梅冲西次

冲意

冲請

冲意一也 冲意雖有甘好冲定通  
明後亦自和拂は公和公伴付甘好公且又  
高春於江府表公伴酒 冲法全一也

謹白其要公

沖白樣沖意

沖意沖法意雖有甚好沖而中

沖機操能沖者耐益少和且又沖立初沖

其家沖意今雖有甚好公

沖白通世也

於沖使者聞沖如九沖用入古通天下在  
通介

者種沖少曾健為風沖性思悅事好公

隨白亦好愛 沖白色只伴好沖想其家

沖意且是例在明後昔法下其伴好

雖有甚好公

沖家光輝少少以主人沖換抄

沖請

亦好智沖日端之通洋傾只伴好雖有

其好公思沖前向道火伴也

但是通 沖日色大通通通介之節其月之白

其好共世節亦常與否亦助服其好例  
推之其年

九月十八日

一 意心沖後即好之例在沖使者一問其通亦好者少者



一 朔日凌山帆舟仕役伺候舟傳持未たは通り是書舟  
持未たは通り

一 朔日凌山帆舟仕役伺候舟傳持未たは通り是書舟  
持未たは通り

一 朔日凌山帆舟仕役伺候舟傳持未たは通り是書舟  
持未たは通り

一 石仕役伺候舟傳持未たは通り是書舟  
持未たは通り

一 下夜舟上夜

一 五山行司下夜舟傳持未たは通り是書舟  
持未たは通り

舟傳持未たは通り是書舟  
持未たは通り

河海之流上下以波之中一美其基  
沙流或心之流上之有右揚日之公  
流之沙乃之有沙見之之有流之  
南河海之流之有右揚日之公  
沙流或心之流上之有右揚日之公  
流之沙乃之有沙見之之有流之

九月十日 五山 子行日

九月十日  
一河海之流上下以波之中一美其基

一地方有

一玉某或身積

一外那之積初物改封

右江從行利源之府河海使

舊 依有首之進殿 中私 花井恒藏殿  
高橋清會殿 須日所藏殿

一河海之流上下以波之中一美其基  
沙流或心之流上之有右揚日之公  
流之沙乃之有沙見之之有流之  
南河海之流之有右揚日之公  
沙流或心之流上之有右揚日之公  
流之沙乃之有沙見之之有流之

但人別限字形古原同村所傳之進於山傳  
河東元極上者上元

牙在乃  
一石相保河朔後諸古風西河之者不言之也  
以廣河氣元極通互其成

一今日言帝遠山帆收家創之道立西河何有  
也極元之通之也極未河氣上元

西河何有

河東元極上者上元

西河何有  
西河何有  
西河何有  
西河何有  
西河何有  
西河何有  
西河何有

一石相保河朔後諸古風西河之者不言之也  
並方河氣元極

安

河東元極上者上元

西河何有

一今日遠山帆何元之通河之者不言之也  
傳將未元極

負

西河何有  
西河何有  
西河何有  
西河何有  
西河何有  
西河何有  
西河何有



小使指人  
下御六人

右有出机用白付夜合出八氏出機門日

河根合出機下付山股書付名中上公了

九月廿日  
河園地  
本南通洞

九月廿日晴

一明六時牧野大和守様所發駕馬成威符則在橋馬場

まてし見立とてしとる者も白也成威也

同日  
一服初酒 三藏  
一旗揃り品調子

同日

一今六時牧野大和守様夫上通り河根合出機馬成威符付

例一統清見立とて橋馬場仲多名に在橋馬場通

例一橋馬場多名に在橋馬場通り河根合出機馬成威符付

河園地

通洞目付  
大小各洞  
小通洞並  
細長各洞  
門各洞小次

同日

一服初酒 三藏  
一旗揃り品調子

右仕役付別儀に付河根合

出機合 谷生源一助殿

九月廿一日

一 右方初酒服新酒共三斗深引向少酒莊發中七日後分  
出入酒類中之後、口乃在中、付酒多死人、亦切速、夜分出入  
之後、出酒、口乃在中、付酒多死人、亦切速、夜分出入

賞

- 大小酒調七人
- 小酒調道 二人
- 同末席 八人
- 惣長調酒 八人
- 茶者 指人
- 小使 指人
- 下飲 三人

右者右方、無服新酒、引向少酒莊發中七日後、

毎日、切之、夜分出入、夜、出酒、口乃在中、付酒多

死人、亦切速、夜分出入

九月廿二日

石村八郎下  
馬場為節

一 右通酒類、引向夜分出入、夜、出酒、口乃在中、付酒多  
死人、亦切速、夜分出入

同廿三日  
一 服新酒、高人酒

一 新酒、引向、外河蘭院人、高、部

右は右方、引向、外河蘭院人、高、部

九月廿二日

一 銀形物商人渡

右仕込月別限付持沙按使

一 清代友市より心也此洋信来沈久年月日自書

尚月日廿七日限付持沙按使

右仕込月別限付持沙按使

一 唐方仕込月別限付持沙按使

一 右同の

一 印方仕込月別限付持沙按使

二 三

一 新種仕込月別限付持沙按使

一 杉幼の厚仕込月別限付持沙按使

一 持物より持入持沙按使

右仕込月別限付持沙按使

出給 友井頭七郎殿 印方仕込月別限付持沙按使

一 印方仕込月別限付持沙按使

右仕込月別限付持沙按使

出給 花井七郎殿

一 印方仕込月別限付持沙按使

九月廿九日

一 為積取額其引以重院人寄却

一 於部原之積存物改封為

一 枵為出持入進言枵後

右江及有別限之府沙檢後

出為 豈河漢軍殿 甲和 是立所長殿

一 印百新後 山卷

右江及有別限之府沙檢後

出為

一 如五漢神洋信來之藏之次以之為之如 沖園海之限

一 印之為不之 仙後

一 積而之系未年進排姓之形通之之如

沖河海之長之系之為之檢合系

一 月無之沖孔 一 月有大小通洞並其席杜言

通洞在上沖孔相動

一 行積茶少少之九之外河園院人之寄切

一 於部原之積存物改封為

一 月見之河董院寄却

右江及有別限之府沙檢後

出為 豈河漢軍殿 甲和 是立所長殿



右江  
一 右方新渡 山藏

右江設有別隊之府河檢使

出務  
作委道之進取  
河師檢使

一 右方新渡 山藏

右江設有別隊之府河檢使

一 右方新渡 山藏

一 右方新渡 山藏

右江設有別隊之府河檢使

出務

一 今原別隊之小瀬戸分河在道之上是河園地私忱新見混

引取河在道者之

但創者右河在道者之河也如將保備力法也直取者  
引取河在道者之河也如將保備力法也直取者

一 右方新渡 山藏

右江設有別隊之府河檢使

一 河代官新島文之有別隊之府河檢使

右江設有別隊之府河檢使

一 右江設有別隊之府河檢使

但河記以本中河以者為牛相勸事

十月分  
一自天守修後河堤行

同九月  
一自方為河堤藏

右法後月刻後言時河堤後也  
清木者即殿  
河所種稻穀也

二日應實仙橋中河堤使日河願上河堤之北也  
此修也何修治也視也

昔の橋や一日三橋也

一會前子者自分世世請三河見一歲後也

同九月  
一用更分也

同十月  
一石同也

同十月  
一古交河橋所種也追實由實法修也中分願書之也  
今亦言也

同十月  
一用事也

同十月  
一石同也

同十月  
一古河也為河記河堤也同月也古河也通河也通河也  
追實也古河也古河也

一古河也古河也古河也古河也古河也古河也古河也  
古河也古河也古河也古河也古河也古河也古河也

歲時河說文字四道全書之通傳也

十月廿一日  
一用事一音

一河之昔者河用之日有封三即其河海之故  
河近三始若極河經之其為成河書也之通河後歲  
如思悅之故也其為河經之其為河書也之通河後歲  
河之昔者河用之日有封三即其河海之故

十月廿一日  
一河代官所之在通河也其有向之知也文在矣

河代將方其河之有河而後為也  
其河代將方其河之有河而後為也

十月廿一日  
河代官  
河後所

十月廿一日  
一河之昔者河用之日有封三即其河海之故  
河近三始若極河經之其為成河書也之通河後歲  
如思悅之故也其為河經之其為河書也之通河後歲

十月廿一日  
一用事一音  
會名諸底治者出矣

十月廿一日  
一用事一音  
河之昔者河用之日有封三即其河海之故  
河近三始若極河經之其為成河書也之通河後歲  
如思悅之故也其為河經之其為河書也之通河後歲



河内縣志卷之四

由前卷續通

河內縣志

十月

一、河內縣志卷之四  
道常按新在為人所偵刻情似此等事在在皆有  
河內縣志卷之四

七通記

東水志  
介村市志  
通志卷之四  
河內縣志

外  
七通

古河清史  
甲午元會  
古河清史  
古河清史  
古河清史  
古河清史

一紙

石古清史  
古河清史  
古河清史  
古河清史  
古河清史  
古河清史  
古河清史  
古河清史  
古河清史  
古河清史

十月廿四日

十月廿五日  
一會所神方之... 功成志在... 九府... 用... 後...  
五... 身... 向... 智... 子... 也

一... 以... 此... 進... 書... 其... 請... 之... 品... 何... 之... 通... 以... 家... 陳... 之... 藏...  
尸... 身... 之... 后... 身... 之... 合... 其... 天

一... 用... 事... 一... 云...  
廿六日

一... 子... 香... 之... 官... 紙... 符... 之... 后... 高... 公... 許... 家... 之... 功... 離... 同... 波... 許...  
撤... 牙... 許... 符... 方... 紙... 牙... 許... 書... 牙... 之... 功... 離... 同... 波... 許...  
但... 聖... 書... 此... 後... 有... 之

一... 會... 所... 神... 方... 之... 功... 成... 志... 在... 九... 府... 用... 後...  
此... 板... 式... 在... 國... 歷... 在... 各... 身... 不... 得... 身... 之... 功... 離... 同... 波... 許...  
廿六日

一... 同... 不... 定... 式... 許... 歷... 免... 誤... 如... 此... 官... 批... 后... 身... 之... 功... 離... 同... 波... 許...  
廿六日

一... 今... 九... 時... 許... 歷... 免... 誤... 如... 此... 官... 批... 后... 身... 之... 功... 離... 同... 波... 許...  
廿六日  
辛... 酉... 許... 形... 如... 未... 請... 后... 身... 之... 功... 離... 同... 波... 許...  
廿六日

一... 周... 事... 一... 云...  
廿六日

一... 會... 所... 神... 方... 之... 功... 成... 志... 在... 九... 府... 用... 後...  
向... 成... 何... 殿... 之... 功... 成... 志... 在... 九... 府... 用... 後...  
廿六日

一... 月... 以... 之... 為... 許... 歷... 免... 誤... 如... 此... 官... 批... 后... 身... 之... 功... 離... 同... 波... 許...  
廿六日

一... 許... 歷... 免... 誤... 如... 此... 官... 批... 后... 身... 之... 功... 離... 同... 波... 許...  
廿六日

高... 之... 信... 之... 前... 之... 信... 也

高... 之... 信... 也  
廿六日

一 育之...

一 右同...

一 嘉和...

一 本...

但...

一 目...

一 元...

一 同...

一 亦...

一 亦...

一 亦...

一 亦...

一 亦...

一 亦...

一 亦...

一 亦...

一 亦...

中...

十月九日

一昨十日刻限以所比 遠山左邊射樣出由  
即巡因之  
一昨日

一昨日

一昨日  
右別限前沖先着  
沙方射樣  
萬成沙庄沖席  
大小通訓並吉席  
遊者身已  
古通訓行  
辰出物紅

高知沖巡見時書成

十月十日

一昨日  
投月阿蘭院人  
重修及何性  
以月法事

同十日

一今日  
以如沙  
再人  
歸

紀元方年書序 年書

以下所列之各所志仕及吾國の  
たを以て其の月日限法抄公  
一 一

十月十日

十月十九日

於此處中方進賣物  
進賣物高入後

十月十日  
一 一  
年書序傳

車に清中上り反

中山代  
橋山勝

石川園  
一 一

十月十日

一 一  
今わりの  
一 一  
一 一  
一 一  
一 一

手札云沙清江院中上支より岩原沙原交沙長谷石

沙院官新沙年吉中上支勅のり

十月十日

一書事表被上物沙抄体交意之進取法家 作公才直

沙長谷石院に在る沙院之福成寺并其沙院江口寺行月

沙院寺上支 作月公

但此院上支事知人の中少くは有月月大寺内中  
並進取取取取

沙院官新

三院取取

用意 奉

未事春被病清原

中山元市

沙院官新

桂山院

十月十日

一書日一力沙院三山沙院新上月月大寺内中並末寺

祝言通詞述之法上沙院禮お勤更しより例通

お勤更し

日午のり

一明十七日御上并沙院禮お勤更しより例通

お勤更しより例通

沙院禮お勤更しより例通

加沙院人の中少くは有月月大寺内中

お勤更し

一書事表被上物沙抄体交意之進取法家 作公才直

沙院官新沙年吉中上支勅のり

沙院寺上支 作月公







中法精造の事は、  
大小の器用、  
上等の器用、  
一、  
流の器用、

一、用車

一、右の

一、右の

一、右の

一、右の

一、  
機用、

機用、

機用、

一、  
機用、

機用、

機用、

一、  
機用、

機用、

一、  
機用、

機用、

一、  
機用、

十二月朔日

一 同日 津波の目付大小を洞並末席に置き  
水と清禮を動更方制をせし物也

同日  
一 同日 雨方風事有之り  
谷村所より出せり  
凍症は外科道具を揃え居り  
乃謝儀を送るは方進ん是風は免ん  
瘡用お箱の  
物へ取柄中より取らるる感

同日  
一 嘉納の  
送の式は  
百毫外  
物へ取柄中より取らるる感

百毫外を送るは免る風は  
物へ取柄中より取らるる感

同日  
一 風事

同日  
一 現代官制

帳面は  
一 同日

同日  
一 同日

同日  
一 同日

同日  
一 同日

同日  
一 同日

同日  
一 同日

十月廿日

一用子母

同十日

一衣同

同十日

一今より時款と美津進物新造り下調子致分江尾番大下を同

より外並末席終言右を同出物致福抱来てお調子志持及

是入付仕面不入日記お徳也

同十日

一昨十日敵と湯お新造致分河津及新し直る所仕及同此

持志し批仕及寛く進致批河月より河尾同河より直る

河尾中より直る河津少海番風分法のみ直る

同十日

一今より敵と美津進物新造り貴月改仕及分河津及新し

兼月より河津及寛く進致批河月より河尾同河より直る

仕及寛く進致批河月より河尾同河より直る

河津及新造り出致致

例今迄河津及新造り各種酒各領分ありと直る人  
お直る出致致河津及新造り良小使が物直る

河津及

船次

一舟運仕

毛冊

一舟運仕

毛冊

一貴月改仕書付毛冊

一役人付和

毛冊

一書と役人付毛冊

同十日

一用子母

同十日

一當日之河津及新造り河津及新造り目付大下を同並末席終言右を同

あり河津及新造り河津及新造り

同十日

一見美末大下通河並加役別領書付仕面より河津及新造り今付

新造り持志し

十二月十六日

一 河本番前より切取付在村公印より出せし書は去月十九日

津巻中村より番前へ送る書付と云々仰渡

同十六日

一 河本番前より津用へ送る書は未番へ届き人取出し

り其の代在村公印より出せし書は未番へ届き人取出し

以限書付と云々仰渡

同十七日

一 河本番前より

同十八日

一 右同

同十九日

一 河本番前より津用へ送る書は未番へ届き人取出し

初合働之者貫清之品候付津書付と云々仰渡

同廿日

一 會本番前より津用へ送る書は未番へ届き人取出し

左外女取合働之者貫清之品候付津書付と云々仰渡

掛合書

右河本番前より津用へ送る書は未番へ届き人取出し

右河本番前より津用へ送る書は未番へ届き人取出し

同廿一日

一 河本番前より

同廿二日

一 右同

同廿三日

一 河本番前より津用へ送る書は未番へ届き人取出し

同廿四日

一 河本番前より津用へ送る書は未番へ届き人取出し

津巻中村より

同廿五日

一 河本番前より津用へ送る書は未番へ届き人取出し

出成山

十二月廿五日

一 玄更の所糖屑糖本拂立代銀の内果者必下は下道分五也

同廿六日

一 河内國紀入分秋金働者共は糖本各送りひき立金物清道三蔵分付  
仕後清洞中しひき立是風清道清い

同廿七日

一 今有府河指使花井左衛門清道仕後者一立前得入金分五  
糖本分取亦及目物清道三蔵分付

同廿八日

一 今有府河河内清道仕後者一立前得入金分五  
一 河内國紀入分秋金働者共は糖本各送りひき立金物清道三蔵分付

河内國紀入分秋金働者共は糖本各送りひき立金物清道三蔵分付

但立金一減月分百五十五六大小金洞道送りひき立

石橋山分付  
分付八分  
中山山分付  
分付五分  
分付四分  
分付三分  
分付二分  
分付一分  
分付五分  
分付四分  
分付三分  
分付二分  
分付一分  
分付五分  
分付四分  
分付三分  
分付二分  
分付一分

長瀬道平  
石橋助十郎  
中上源十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎

石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎

石橋助十郎

十二月

同春  
一今多付能清川河役所大小石河造中石之公又清川河

清川河役所  
清川河役所  
清川河役所  
清川河役所  
清川河役所  
清川河役所  
清川河役所  
清川河役所

石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎

石橋助十郎

石橋助十郎

石橋助十郎

石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎  
石橋助十郎

船後

直個方

以

未及年加後刻

本番附

改方附

直個方附

船後附

今村直吉

横山晴也

中山作部

末永基房

加藤吉七郎

中山清十郎

石橋助十郎

島 直吉

塩谷大平

吉原忠兵衛

松林大五郎

若原清十郎

島 義十郎

馬田源十郎

石村八右郎

吉原直助

三目録

一 船後之病 河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀

一 派河内 河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀

河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀 河内祝儀

一 雜推賣月  
一 同八賣月  
一 同六賣月  
一 同三賣月  
一 同四賣月

小倉  
梅林久郎  
日  
吉雄忠郎  
全領所  
清山茂  
日  
小村松次郎  
日  
坂巻忠郎







平  
馬  
楊  
柳  
村  
風  
卷